

2023 年度

○履 修 案 内

○演習・少人数講義要項

東京大学経済学部

<令和5（2023）年度年間スケジュール（予定）>

以下の日程のうち、期間が確定していないものについては追って掲示する。  
また、期間が確定しているものについても、変更となる場合があるので、必ず掲示を確認すること。

【S1】授業期間 4月5日（水）～5月26日（金）

4月3日（月）	前学期までの成績発表（UTAS参照） 進学手続
4月4日（火）	進学者ガイダンス
4月5日（水）～4月19日（水）	S1履修登録期間
4月20日（木）～4月30日（日）	S1履修登録修正期間
4月5日（水）～4月12日（水）11:00	演習・少人数講義参加申込（一次募集）
4月下旬	プロアクティブ・ラーニング・セミナー（S1・S2）申請期限
5月2日（火）23:59	卒業論文届提出期限

【S1】試験期間 5月29日（月）、5月30日（火）、5月31日（水）、6月1日（木）、6月2日（金）

【S2】授業期間 6月5日（月）～7月21日（金）

6月5日（月）～6月16日（金）	S2履修登録期間
6月17日（土）～6月22日（木）	S2履修登録修正期間
6月上旬	9月卒業見込届提出（3月に卒業延期となった者で9月卒業希望者のみ）
6月19日（月）予定	前学期までの成績発表

【S2】試験期間 7月24日（月）、7月25日（火）、7月26日（水）、7月27日（木）、7月28日（金）

【A1】授業期間 10月3日（火）～11月15日（水）

9月7日（木）予定	前学期までの成績発表（UTAS参照）
9月中旬	少人数講義追加参加申込期限（該当科目のみ）
10月3日（火）～10月16日（月）	A1履修登録期間
10月17日（火）～10月22日（日）	A1履修登録修正期間
10月上旬	プロアクティブ・ラーニング・セミナー（A1・A2）申請期限

【A1】試験期間 11月16日（木）、11月17日（金）、11月20日（月）、11月22日（水）、11月28日（火）

【A2】授業期間 11月29日（水）～1月23日（火）

11月29日（水）～12月12日（火）	A2履修登録期間（Wタームを含む）
12月13日（水）～12月18日（月）	A2履修登録修正期間（Wタームを含む）
12月上旬	卒業見込（延期）届提出（4年生全員）
12月13日（水）予定	前学期までの成績発表（UTAS参照）

【A2】試験期間 1月24日（水）、1月25日（木）、1月26日（金）、1月29日（月）、1月30日（火）

※1 授業期間及び試験期間等の詳細については、経済学部便覧の裏表紙を参照すること。

※2 試験期間に、原則として、授業（補講）は行わない。

※3 上記以外の主なスケジュールは次のとおり。

- 9月上旬 9月卒業決定者発表
- 9月下旬 東京大学秋季卒業式
- 1月上旬 卒業論文提出期限
- 1月中旬 卒業論文口述試験
- 2月上旬 転学科願提出（3年生のうち次年度の4月から学科変更を希望する学生のみ）
- 3月上旬 3月卒業決定者発表
- 3月下旬 東京大学卒業式・経済学部学位記伝達式

# 目次

I	履修案内	3
1.	卒業単位	5
2.	履修登録	7
3.	履修に際しての注意	8
4.	演習・少人数講義	12
5.	プロアクティブ・ラーニング・セミナー	13
6.	卒業論文	13
	—開講予定科目・授業担当者表	15
	—時間割（専門科目1）	35
II	演習・少人数講義参加者募集要項	41
1.	演習・少人数講義の履修	43
2.	演習・少人数講義の参加申込等	43
3.	演習・少人数講義案内	44
	—シラバス（演習）	47
	—シラバス（少人数講義）	81
III	その他、諸手続等	101



# I 履修案内



# I 履修案内

## 1. 卒業単位

### 1) 各学科における卒業に必要な単位について

各学科における卒業に必要な単位は以下のとおりです。この他に学科による履修の制限・要求はないので、どの科目区分からも履修できます。ただし、既習科目の再度履修は認められていません。

学科名	学科共通の 選択必修	各学科の 選択必修	総単位 (選択必修を含む)
経済学科	<u>専門科目 1</u> 20 単位	<u>専門科目 2</u> 18 単位	<u>80 単位</u> (3 学科共通) ・演習は 16 単位まで ・プロアクティブ・ラーニング・セミナーは 4 単位まで ・他学部科目は 14 単位まで ※詳細は、下記を必ず参照のこと。
経営学科	<u>専門科目 1</u> 20 単位	<u>専門科目 3</u> 18 単位	
金融学科	<u>専門科目 1</u> 20 単位	<u>専門科目 4</u> 18 単位	

- (a) 各科目区分（専門科目 1、2、3、4 及び選択科目）に該当する科目は、進学年度により異なっています。詳細は、後掲の「開講予定科目・授業担当者表」により確認してください。
- (b) 演習は、年度（S 1・S 2・A 1・A 2）開講となっており、同一年度に 8 単位（2 演習）まで、在学期間内に 16 単位（同一演習は 8 単位）まで履修が認められています。
- (c) プロアクティブ・ラーニング・セミナーは、 Semester（S 1・S 2 または A 1・A 2）開講となっており、同一 Semester に 2 単位（1 セミナー）まで、在学期間内に 4 単位まで履修が認められています。
- (d) 他学部科目（教職課程専門科目を含む）は、14 単位まで卒業単位に算入されます。そのうち、スポーツトレーニング実習は 2 単位まで算入が認められています。ただし、3 月卒業の場合は当該年度の A 1・A 2 または A 2 等の A 2（W を含む。）にかかると開講科目、9 月卒業の場合は当該年度の S 1・S 2 または S 2 等の S 2 にかかると開講科目の単位は算入されません。

## 2) 「遠隔授業」の取得単位数・上限 60 単位の取扱いについて

「遠隔授業」により取得する単位数について、卒業単位に含めることができるのは、学部前期課程（教養学部前期課程）及び学部後期課程（経済学部）を通じて、60 単位までとなります。常に単位取得状況や履修計画の確認を行い、当該上限 60 単位を超えることがないように、十分注意してください。

### <授業実施形態>

各科目の授業実施形態は、次の①～⑤に分類されることとなりますので、「UTAS」のシラバス等により、確認してください。

- ① 対面型（対面のみで実施）
- ② 対面・オンライン併用型 A（総時間数の半数以上を対面で実施）
- ③ 対面・オンライン併用型 B（総時間数の半数未満を対面で実施）
- ④ オンライン型（オンラインのみで実施）
- ⑤ オンデマンド型（すべての授業回数をオンデマンドで実施）

・①②の科目の単位を取得した場合、「対面授業」の単位として取り扱うこととなります。

・③④⑤の科目の単位を取得した場合、「遠隔授業」の単位として取り扱うこととなります。

・なお、やむを得ない事情により、授業実施形態について、「対面授業」から「遠隔授業」に、又は、「遠隔授業」から「対面授業」に変更となる場合もあります。

### <補足>

・令和 2（2020）年度、令和 3（2021）年度において、上記授業実施形態③④⑤の科目により取得した単位については、コロナ禍における特例的な措置として、「対面授業」の単位として取り扱うこととなります。

## 3) 定期試験について

経済学部では、専門科目 1、2、3、4 等の定期試験を行う科目について、定期試験を受験せずに単位を取得することはできません。

ー各タームの試験関係時間割については、掲示により事前周知を行います。

また、他の試験との重複や個別事情等によるレポート代替・追試験等、定期試験の特別措置は行いません。



## 2. 履修登録

### 1) 履修登録の方法について

- (a) UTAS (WEB 入力) により、各自で履修登録を行ってください。
- (b) 必ず UTAS において、履修登録状況の最終確認を行ってください。(ITC-LMS の「受講登録」のみを行い、UTAS の履修登録が完了していない場合、当該履修登録は行われていないこととなりますので、十分注意してください。)

### 2) 経済学部の履修登録期間と履修登録修正期間について

- (a) 各ターム、経済学部の履修登録期間と履修登録修正期間が設定されています。具体的な期間については、本冊子の表紙の裏にある年間スケジュールを確認してください。なお、当該年間スケジュールは予定であり、変更となる場合があります。その場合には、掲示により事前周知を行います。
- (b) はじめに、履修登録期間内に、各自で履修登録を完了させてください。続いて、履修登録修正期間において、各自で履修登録の状況の最終確認を行い、追加・削除等の変更がある場合には、当該履修登録修正期間内に、各自で履修登録の変更を行ってください。(履修登録修正期間以降は、UTAS による履修登録の追加・削除等の変更を行うことができなくなりますので、十分注意してください。)

	授業日程			
	S 1	S 2	A 1	A 2
S 1 履修登録期間又は履修登録修正期間	S 1 開講科目			
	S 1・S 2 開講科目			
	S 1・S 2・A 1・A 2 開講科目			
S 2 履修登録期間又は履修登録修正期間	S 2 開講科目			
A 1 履修登録期間又は履修登録修正期間			A 1 開講科目	
			A 1・A 2 開講科目	
A 2 履修登録期間又は履修登録修正期間				A 2 開講科目

- (c) 「経済学部科目」及び「他学部科目」ともに、各科目の授業が開始する最初のターム (S 1・S 2・A 1・A 2) の「経済学部の履修登録期間又は履

修登録修正期間」内に履修登録を行ってください。

- (d) Wタームに授業が開始する他学部科目については、「経済学部 A 2 の履修登録期間又は履修登録修正期間」内に履修登録を行ってください。
- (e) スポーツトレーニング実習については、UTAS による履修登録だけでなく、ガイダンス出席（教養学部指定日：詳細は別途掲示）が併せて必要になる等、履修登録に係る取り扱いが異なる科目もあるので注意してください。

### 3) 各科目のシラバス及び時間割等の情報について

- (a) 各科目のシラバス及び時間割等の情報については、UTAS 等により、確認してください。
- (b) なお、時間割については、変更となる場合がありますので、UTAS 等により、随時確認するようにしてください。
- (c) 経済学部科目の時間割コードは、後掲の「開講予定科目・授業担当者表」を参照してください。
- (d) 教務チーム学部担当窓口にて、他学部便覧を閲覧することもできます。

## 3. 履修に際しての注意

### 1) 駒場キャンパス開講科目について

各科目の授業実施形態は、上記 1. 2) のように分類されることとなります。

原則として、駒場キャンパスで対面（一部又は全部）により授業及び試験を行う科目と本郷キャンパスで対面（一部又は全部）により授業及び試験を行う科目については、双方に 30 分以上の空き時間がない限り、連続する時限の両方の科目を履修することはできません。（2 限と 3 限については、30 分以上の空き時間があるため、履修は可となります。）教養学部以外の学部が駒場キャンパスで開講する科目、又は、駒場キャンパスに相当する移動時間を要する他のキャンパスで開講する科目も同様の取扱いとなります。

2 限と 3 限の場合を除き、30 分以上の空き時間がない連続する時限の科目の履修登録を行った場合、両方の科目の履修登録を削除します。

上記を確認の上、履修登録を行ってください。履修登録後に判明した場合は、速やかに教務チーム学部担当に申し出てください。

一なお、駒場キャンパスと本郷キャンパスにおいて開講する 30 分以上の空き時間がない連続する時限のそれぞれの科目について、どちらか一方がオンライン（全部）により授業及び試験を行う科目の場合には、両方の科目の履修登録は可となります。

## 2) 集中講義科目について

経済学部科目または他学部科目を問わず、同一の時間帯（曜日・時限）に履修できるのは1科目のみになります。

集中講義科目の授業日程について、履修登録している他の科目の時間帯（曜日・時限）と一部でも重複する場合、時間帯（曜日・時限）の重複の扱いとなるため、集中講義科目の履修登録を削除します。

上記を確認の上、履修登録を行ってください。履修登録後に判明した場合は、速やかに教務チーム学部担当に申し出てください。

## 3) 既習科目等について

単位を取得済みの既習科目については、再度履修することはできませんので、成績表等で確認の上、間違えないようにしてください。

単位を取得できなかった「不可」または「未受験」の科目は、再度履修することができます。

単位を取得済みの既習科目を履修登録した場合、当該既習科目の履修登録を削除します。また、万一、単位を取得済みの既習科目があることが判明した場合は、当該既習科目の成績を削除します。

### <経済学部科目における既習科目の再度履修不可の取り扱い>

・原則として、時間割コード及び科目名が同一の科目については、再度履修不可となります。（演習・少人数講義、プロアクティブ・ラーニング・セミナーを除く。）

・次の科目については、両方の科目の履修は不可となります。（どちらか一方の（組み合わせの）科目のみ、単位の取得が可能です。）

0704241-01：再生可能エネルギーと公共政策	0704241：再生可能エネルギーと公共政策
0704244：日本の財政金融政策	0704244：政策担当者が語る日本の財政金融論
0704175：Introduction to Matching Theory and Market Design	0704175：マーケットデザイン
0704532：産業事情「ITと産業界」	0704120：ITと産業界
0704121：文科系のための解析・線形代数	0704122：文科系のための線形代数・解析Ⅰ
	0704123：文科系のための線形代数・解析Ⅱ

### <経済学部科目における進学年度により異なる履修可能な科目の取り扱い>

・次の科目については、進学年度により履修可能な科目が異なっているので、十分注意すること。

	2019年度以前 進学者	2020年度 進学者	2021年度以降 進学者
0702208-01 : 国際経済 I (専門科目 2) 0702211 : 国際貿易 (専門科目 2・3・4)	0702211 : 国際貿易 (専門科目 2・3・4)	0702208-01 : 国際経済 I (専門科目 2)	0702208-01 : 国際経済 I (専門科目 2)
0701101-01 : 経済原論 I (専門科目 1) 0704131 : 経済原論 I (選択科目)	0701101-01 : 経済原論 I (専門科目 1)	0701101-01 : 経済原論 I (専門科目 1)	0704131 : 経済原論 I (選択科目)
0701101-02 : 経済原論 II (専門科目 1) 0704132 : 経済原論 II (選択科目)	0701101-02 : 経済原論 II (専門科目 1)	0701101-02 : 経済原論 II (専門科目 1)	0704132 : 経済原論 II (選択科目)

<経済学部科目と法学部科目の合併科目>

・次の科目については、経済学部科目のみ履修可能です。(経済学部科目のみ単位取得可能です。)

経済学部科目	法学部科目
0701104-01 : 統計 I	統計学 I
0701104-02 : 統計 II	統計学 II
0702203-01 : 金融 I	金融論 I
0702206-01 : 労働経済 I	労働経済 I
0702208-01 : 国際経済 I (2020年度以降進学者) 0702211 : 国際貿易 (2019年度以前進学者)	国際経済論 I
0704311-01 : 国際経営 I	国際経営 I
0705031 : 国際経営 II	国際経営 II
0704174 : Big Tech and Competition Law: How Has Competition Law Dealt with GAFA?	経済法演習 (外国語科目) ※VANDE WALLE 教授担当の左記と同様の学期・曜限の科目
0704234 : 金融 II	金融論 II
0704236 : 労働経済 II	労働経済 II
0704238 : 国際経済 II	国際経済論 II
0704243 : Japan's Modernization Experience and Its ODA Policy	国際政治演習 ※高原教授担当の左記と同様の学期・曜限の科目
0705704 : 民法 (2)	民法第 2 部
0705705 : 行政法	行政法第 1 部
0705706 : 労働法	労働法
0705707 : 商法 (1)	商法第 3 部
0705708 : 商法 (2)	商法第 1 部
0705709 : 商法 (3)	商法第 2 部
0705710 : 経済法	経済法

0705712：日本政治史	日本政治外交史
0705713：日本政治	日本政治

<経済学部科目と法学部科目の類似科目>

- ・次の科目については、両方の科目の履修は不可となります。（どちらか一方の（組み合わせの）科目のみ、単位の取得が可能です。）

経済学部科目	法学部科目
0701303-01：会計	会計学
0702202-01：財政 I	財政学
0704233：財政 II	
0705703：民法（1）	民法第 1 部

4) 履修計画について

連続する 2 つ以上のタームで開講する科目については、最初のタームの履修登録期間又は履修登録修正期間に履修登録を行ってください。それ以外のタームの履修登録期間又は履修登録修正期間での追加・削除等の変更は認められません。

- － Semester (S 1・S 2) 開講の科目は、S 1 の履修登録期間内に履修登録を行ってください。
- － Semester (A 1・A 2) 開講の科目は、A 1 の履修登録期間内に履修登録を行ってください。
- － 通年 (S 1・S 2・A 1・A 2) 開講の科目は、S 1 の履修登録期間内に履修登録を行ってください。

開講される時間帯(曜日・時限)が学期によって異なる科目もあります。また、科目によって週に開講する回数が異なりますので、複数回授業がある科目については、その全てにおいて他の科目と時間帯(曜日・時限)が重複していないかよく確認してから履修登録を行ってください。

必ず、年間を通じた履修計画をたてた上で履修登録を行うようにしてください。(特に、選択必修科目である専門科目 1、2、3、4 については、卒業に必要な単位が足りなくならないよう、十分注意してください。)

5) 成績評価に係る疑義がある場合について

- ① 成績評価に疑義があり、明らかにそれが授業担当教員の誤りであると思われる場合のみ、成績発表日から 1 週間以内に所定の様式により教務チーム学部担当へ申し出ることができます。

なお、3 月または 9 月の卒業見込の 4 年生について、成績評価に疑義がある場合には、成績発表日から 2 日以内に教務チーム学部担当に申し出てく

ださい。

- ② 教務チーム学部担当は、授業担当教員等に確認を行い、当該学生へ結果を通知します。

#### 4. 演習・少人数講義

年度当初の4月上旬に参加者募集があり、参加申込を行う必要があります。参加許可を受けた演習・少人数講義については、教務チーム学部担当にて履修登録を行いますので、当該演習・少人数講義の開講する時間帯（曜日・時限）に他の科目の履修登録を行わないようにしてください。当該演習・少人数講義の開講する時間帯（曜日・時限）に他の科目の履修登録を行った場合、当該他の科目の履修登録を削除します。

なお、演習・少人数講義は、次の時限も引き続き行われる場合がありますので、当該演習・少人数講義の開講する次の時限は空けておくようにしてください。

その他、演習・少人数講義の参加申込の詳細については、後掲の「演習・少人数講義参加者募集要項」を参照してください。

##### <演習の単位分割申請について>

交流協定に基づく留学又は海外修学を理由とした休学（学生の休学の基準第1条第1項に定める「海外の教育・研究施設において修学するため休学を必要とする者」）のため、演習への通年（S1・S2・A1・A2）の参加ができない場合に限り、単位分割申請を行うことができます。

単位分割により付与される単位数は、「1単位×演習参加ターム数」となり、2単位（2ターム分）または3単位（3ターム分）の申請を行うことができます。

（1単位（1ターム分）の申請を行うことはできません。）ただし、経済学部の授業期間と留学期間（受入許可書に記載された受入期間）が一部でも重複するタームについては、単位分割は認められません。また、交流協定に基づく留学又は海外修学を理由とした休学に加え、大学を通じて申請するサマープログラム、ウィンタープログラム等に参加する場合は、当該年度の演習の全ての単位が認められない場合がありますので、事前に教務チーム学部担当に確認してください。

単位分割申請を行う際には、当該演習の担当教員の了解を得た上で、演習単位分割申請書（所定用紙）を教務チーム学部担当に提出してください。提出時期等詳細については、渡航前及び帰国後速やかに、教務チーム学部担当に確認してください。

## 5. プロアクティブ・ラーニング・セミナー

プロアクティブ・ラーニング・セミナーは、平成 27 年度より新設された学生の自主的な学習を促すため、教員の監督及びセミナー・リーダーの監督補助のもとで論文の検討会、企業の研究会、ディベートなどを行い、レポート等を提出することによって単位を認定される制度です。

プロアクティブ・ラーニング・セミナーの申請方法及び時期等の詳細については、掲示により事前周知を行います。なお、S 1・S 2で行うセミナーは4月下旬、A 1・A 2タームで行うセミナーは10月上旬が申請期限となります。

実施を許可されたプロアクティブ・ラーニング・セミナーの参加登録学生の履修登録は、セミナー・リーダー等の代表者が監督教員に提出する「計画書」に基づき、教務チーム学部担当にて行います。当該「計画書」に登録のない学生の履修登録は認められません。

取得した単位については、「対面授業」の単位として取り扱うこととなります。

## 6. 卒業論文

卒業論文の提出方法及び時期等の詳細については、掲示により事前周知を行います。卒業論文を提出（1月上旬提出期限）する予定の4年生は、5月上旬（05/02 提出期限）までに卒業論文届を教務チーム学部担当に提出してください。卒業論文届の提出のあった学生の卒業論文については、教務チーム学部担当にて履修登録を行います。

一 年度当初の5月上旬（05/02 提出期限）までに卒業論文届を提出していない学生は、卒業論文を提出（1月上旬提出期限）することはできません。

一 論文題目は、年度当初の5月上旬（05/02 提出期限）までの卒業論文届の提出時において未定であっても構いません。また、卒業論文の提出（1月上旬提出期限）時において変更することも可能です。

取得した単位については、「対面授業」の単位として取り扱うこととなります。

<交流協定により海外留学をする学生の卒業論文届等の提出時期について>

3年生のうちに交流協定により海外留学し、卒業を4年生の3月とする（もしくは半年延長する）ことを計画し、4年生の卒業論文届の提出期間（次年度当初）には海外留学先に在住している見通しのため、卒業論文届を提出することができない3年生が、4年生の1月上旬（もしくは卒業延長後の6月）に卒業論文の提出を希望する場合、論文指導教員の了解を得た上で、渡航前の3年生の卒業論文届の提出期間（本年度当初（05/02 提出期限））に卒業論文届を提出する必要があります。（渡航後の提出は認められません。）

4年生のうちに交流協定により海外留学し、卒業を1年（もしくは半年）延長することを計画し、次年度の卒業論文届の提出期間（次年度当初）には海外留学先に在住している見通しのため、卒業論文届を提出することができない4年生が、次年度の1月上旬（もしくは6月）に卒業論文の提出を希望する場合、論文指導教員の了解を得た上で、渡航前の4年生の卒業論文届の提出期間（本年度当初（05/02提出期限））に卒業論文届を提出する必要があります。（渡航後の提出は認められません。）

卒業論文を作成することを参加要件としている演習・少人数講義に参加し、かつ、上記により卒業論文の提出を希望する場合、本年度当初（05/02提出期限）に卒業論文届を提出する必要がありますので、十分注意してください。



## 開講予定科目・授業担当者表

- ※ 各科目区分（専門科目 1、2、3、4 及び  
選択科目）に該当する科目は、進学年度によ  
り異なる。

令和5（2023）年度開講予定科目・授業担当者表

【令和元（2019）年度以前の経済学部進学者用】

区分	時間割コード	授業科目名	単位数	学期	担当者	備考
専門科目1（学科共通選択必修）						
	0701101-01	経済原論Ⅰ	2	S1	江原 慶	
	0701101-02	経済原論Ⅱ	2	S2	江原 慶	
	0701102-01	ミクロ経済学Ⅰ	2	A1	松島 斉	駒場開講
	0701102-02	ミクロ経済学Ⅱ	2	A2	松島 斉	駒場開講
	0701103-01	マクロ経済学Ⅰ	2	A1	楡井 誠	駒場開講
	0701103-02	マクロ経済学Ⅱ	2	A2	中嶋 智之	駒場開講
	0701104-01	統計Ⅰ	2	A1	久保川 達也	駒場開講／合併（法学）
	0701104-02	統計Ⅱ	2	A2	久保川 達也	駒場開講／合併（法学）
	0701301-01	経営	2	A1	稲水 伸行	駒場開講
	0701302-01	ファイナンス	2	A2	佐藤 整尚	駒場開講
	0701302-02	ゲーム理論	2	S1	高橋 悟	
	0701303-01	会計	2	A1	米山 正樹	駒場開講
	0701401-01	経済史Ⅰ	2	A2	岡崎・城山	駒場開講
	0701401-02	経済史Ⅱ	2	S1	石原 俊時	
専門科目2（経済学科選択必修）						
	0702101-01	経済学史Ⅰ	2	A1	野原 慎司	
	0702102-01	共1 計量経済学Ⅰ	2	A1	下津 克己	
	0702104-01	現代資本主義論Ⅰ	2	S1	岩田 佳久	
	0702105-01	共2 数理統計Ⅰ	2	S1	川久保 友超	
	0702110	共2 * メカニズム・デザイン	2	A1	松島 斉	
	0702201-01	日本経済Ⅰ	2	S1S2	星 岳雄	
	0702202-01	共2 * 財政Ⅰ	2	S1	別所 俊一郎	
	0702203-01	共2 金融Ⅰ	2	S1	福田・随	合併（法学）
	0702204-01	共1 産業組織Ⅰ	2	S1	大橋 弘	
	0702206-01	* 労働経済Ⅰ	2	A1	山口 慎太郎	合併（法学）
	0702207-01	都市経済Ⅰ	2	A1	中川 万理子	
	0702208-01	国際経済Ⅰ	2		不開講	合併（法学）
	0702209-01	開発経済Ⅰ	2	S1	澤田 康幸	
	0702211	共1 国際貿易	2	S1	古澤 泰治	合併（法学）
	0702212	共1 国際金融	2	A1A2	青木 浩介	
	0702401-01	現代日本経済史Ⅰ	2	A1	岡崎 哲二	
	0702402-01	現代西洋経済史Ⅰ	2	A1	永山 のどか	
	0702403-01	近代日本経済史Ⅰ	2	S1	谷本 雅之	
	0702404	アジア経済史	2	A2	城山 智子	
	0704015	共1 * 経済学のための数学	2	S1S2	松井 彰彦	
専門科目3（経営学科選択必修）						
	0702102-01	共1 計量経済学Ⅰ	2	A1	下津 克己	

0702204-01	共1	産業組織 I	2	S1	大橋 弘	合併 (法学)
0702211	共1	国際貿易	2	S1	古澤 泰治	
0702212	共1	国際金融	2	A1A2	青木 浩介	
0703302-01	共3	経営戦略 I	2	A2	新宅 純二郎	
0703305-01	共3	経営史 I	2	S1	山本 浩司	
0703306-01	共3	日本経営史 I	2	A1	粕谷 誠	
0703307-01	共3	マーケティング I	2	S1	目黒 良門	
0703308-01		経営科学 I	2	A1	北上 靖大	
0703309-01	共3	財務会計 I	2	S1	大日方 隆	
0703310-01	共3	管理会計 I	2	S1	首藤 昭信	
0703314-01		技術経営 I	2	A1	桑嶋 健一	
0703316		ICTマネジメント I	2	S1	高井 文子	
0703317		フード・システム I	2	S1	元木 康介	
0703318		グローバル・ベンチャリング I	2	A1	中野 剛治	
0703319	共3	生産システム I	2	S2	福澤 光啓	
0703320	共3	雇用システム I	2	A2	禹 宗杭	
0703321	共3	経営管理 I	2	A1	舟津 昌平	
0704015	共1	* 経済学のための数学	2	S1S2	松井 彰彦	
0704311-01		国際経営 I	2	S1	大木 清弘	合併 (法学)
0704706	共3	経営財務 I	2	A1A2	山本 功	

専門科目 4 (金融学科選択必修)

0702102-01	共1	計量経済学 I	2	A1	下津 克己	合併 (法学)	
0702105-01	共2	数理統計 I	2	S1	川久保 友超		
0702110	共2	* メカニズム・デザイン	2	A1	松島 斉		
0702202-01	共2	* 財政 I	2	S1	別所 俊一郎		
0702203-01	共2	金融 I	2	S1	福田・随		
0702204-01	共1	産業組織 I	2	S1	大橋 弘		
0702211	共1	国際貿易	2	S1	古澤 泰治		合併 (法学)
0702212	共1	国際金融	2	A1A2	青木 浩介		
0703302-01	共3	経営戦略 I	2	A2	新宅 純二郎		
0703305-01	共3	経営史 I	2	S1	山本 浩司		
0703306-01	共3	日本経営史 I	2	A1	粕谷 誠		
0703307-01	共3	マーケティング I	2	S1	目黒 良門		
0703309-01	共3	財務会計 I	2	S1	大日方 隆		
0703310-01	共3	管理会計 I	2	S1	首藤 昭信		
0703319	共3	生産システム I	2	S2	福澤 光啓		
0703320	共3	雇用システム I	2	A2	禹 宗杭		
0703321	共3	経営管理 I	2	A1	舟津 昌平		
0704015	共1	* 経済学のための数学	2	S1S2	松井 彰彦		
0704703-01		* 保険数理 I	2	S1S2	森本 祐司		
0704706	共3	経営財務 I	2	A1A2	山本 功		
0704753		* 金融機関のリスク管理	2	S1S2	池森 俊文		

	0704806-01	プログラミング	2	S1S2	白谷 健一郎	
	0705503	* デリバティブ	2	S1S2	藤井 優成	
選択科目						
	0704012-01	* 上級ミクロ経済学Ⅰ	2	S1S2	松井 彰彦	
	0704012-02	* 上級ミクロ経済学Ⅱ	2	A1A2	神取 道宏	
	0704013-01	* 上級マクロ経済学Ⅰ	2	S1S2	LEE Hanbaek	
	0704013-02	* 上級マクロ経済学Ⅱ	2	A1A2	北尾 早霧	
	0704016	* 数理経済学	2	S2	尾山 大輔	
	0704019	* 経済学方法論	2	A1A2	有江 大介	
	0704020	* 上級経済原論	2	A1	結城 剛志	
	0704026	障害と経済	2	A1A2	松井 彰彦	
	0704033	* 経営管理特論	2	S1S2	新宅・稲水・大木	
	0704034	* 経営戦略特論	2	A1A2	新宅・稲水・大木	
	0704041	* 上級日本経済史Ⅰ	2	S1S2	森本 真世	
	0704042-02	* 上級西洋経済史Ⅱ	2	A1A2	石原 俊時	
	0704050	* 政治経済学	2	A1A2	原谷 直樹	
	0704056-01	* 上級計量経済学Ⅰ	2	S1	奥井 亮	
	0704056-02	* 上級計量経済学Ⅱ	2	S2	市村 英彦	
	0704068	* 上級開発経済	2	S2	澤田 康幸	合併（公共・総文）
	0704071	* 経営管理Ⅱ	2	A2	舟津 昌平	
	0704072	* フード・システムⅡ	2	S2	元木 康介	
	0704074	* 経営戦略Ⅱ	2	S1	新宅 純二郎	
	0704076	* 経営史Ⅱ	2	S2	山本 浩司	
	0704077	* 日本経営史Ⅱ	2	A2	粕谷 誠	
	0704079	* 経営科学Ⅱ	2	A2	稲水 伸行	
	0704081	* 上級日本経済史Ⅱ	2	A1A2	小島 庸平	
	0704082	* 上級アジア経済史	2	A1A2	城山 智子	
	0704115	経済学史Ⅱ	2	A2	野原 慎司	
	0704116	計量経済学Ⅱ	2	A2	下津 克己	
	0704117	現代資本主義論Ⅱ	2	S2	岩田 佳久	
	0704118	数理統計Ⅱ	2	S2	川久保 友超	
	0704122	文科系のための線形代数・解析Ⅰ	2	S1	藤堂・松尾・島田	
	0704123	文科系のための線形代数・解析Ⅱ	2	S2	藤堂・松尾・島田	
	0704133	* 上級経済学史	2	S1S2	野原 慎司	
	0704134	* 社会・経済思想	2	A1A2	野原 慎司	
	0704152	経済統計	2	S1S2	肥後 雅博	
	0704153	人口統計	2	S1S2	金子 隆一	
	0704154	* 応用経済統計	2	A1A2	肥後 雅博	
	0704162-01	* 上級数理統計Ⅰ	2	S1	久保川 達也	
	0704162-02	* 上級数理統計Ⅱ	2	S2	入江 薫	
	0704169	* Advanced Time Series Analysis（上級時系列分析）	2	A1A2	新谷 元嗣	合併（公共）
	0704170	* Empirical analysis of dynamic macroeconomic models	2	S1S2	新谷 元嗣	合併（公共）

0704174	* Big Tech and Competition Law: How Has Competition Law Dealt with GAFA?	2	A1A2	VANDE WALLE, Simon A.W.	合併 (法学系・法学・公共)
0704175	マーケットデザイン	2	A1A2	野田 俊也	
0704176	* Advanced Topics in Matching Theory and Market Design	2	A1A2	小島 武仁	
0704177	* マクロ経済動学	2	S1S2	楡井 誠	
0704178	* Topics in Macroeconomic Theory	2	S1S2	中嶋 智之	
0704180	経済学とコンピューターサイエンス I	2	S1S2	坂口 翔政	
0704181	経済学とコンピューターサイエンス II	2	A1A2	坂口 翔政	
0704182	* グリーンエネルギー論	2	S1S2	杉山 正和	合併 (公共)
0704184	* Applied Econometrics	2	S2	SON Suk Joon	合併 (公共)
0704185	* Discrete Choice Models	2	A1	SON Suk Joon	合併 (公共)
0704187	* Game Theory I	2	A1	尾山 大輔	
0704188	* Game Theory II	2	A2	高橋 悟	
0704201	規制の経済学	2	A1A2	松村 敏弘	合併 (公共)
0704202	* 政府間財政	2	A1	林 正義	
0704203	* 社会保障	2	A1	別所 俊一郎	
0704222	エネルギー政策	2	S1S2	有馬・小山	合併 (公共)
0704223	環境政策	2	A1A2	有馬 純	合併 (公共)
0704232	日本経済 II	2	A1	星 岳雄	合併 (公共・総文)
0704233	* 財政 II	2	S2	林 正義	
0704234	金融 II	2	S2	福田・田中	合併 (法学)
0704236	* 労働経済 II	2	A2	山口 慎太郎	合併 (法学)
0704238	国際経済 II	2	S2	西岡 修一郎	合併 (法学)
0704241	再生可能エネルギーと公共政策	2	S1S2	有馬 純	合併 (公共)
0704242	金融市場と公共政策	2	S1S2	池田 宜睦	合併 (公共)
0704243	Japan's Modernization Experience and Its ODA Policy	2	S1S2	高原 明生	合併 (公共・法学)
0704244	政策担当者が語る日本の財政金融論	2	S1S2	服部・仲	合併 (公共)
0704247	* インフレーションと金融政策	2	A1A2	渡辺 努	合併 (公共)
0704248	日本の未来と個人の役割	2	S1S2	宗像 直子	合併 (公共・法学)
0704252	* 上級世界経済 I	2	S1S2	丸川・小野塚・野原	
0704253	* 上級世界経済 II	2	A1A2	中西・丸川・伊藤	
0704254	* Data Science for Practical Economic Research	2	S1S2	Kucheryavyy Konstantin	合併 (公共)
0704256	* 上級労働経済学	2	S1S2	川田 恵介	合併 (公共)
0704258	* Political Economics	2	S1	WEESE・渡辺	合併 (公共)
0704261	* 上級労働経済学 II	2	A1A2	川口 大司	合併 (公共)
0704262	* Topics in Political Economics	2	S2	渡辺・WEESE	合併 (公共)
0704264	* Essential Academic Skills	2	A1A2	LOU Yichuan	合併 (公共)
0704265	* Topics in Empirical Microeconomics	2	A1A2	SON Suk Joon	合併 (公共)
0704266	* Economic Analysis of Pandemics	2	S1S2	岩本・仲田	合併 (公共)
0704267	* Topics in Labor Economics	2	S1S2	山口 慎太郎	合併 (公共)
0704268	* Readings in Macroeconomic Theory	2	S1S2	楡井・中嶋	
0704269	* Probability Theory and Applications to Economic Theory	2	S1S2	高橋 悟	
0704270	* Machine Learning for Economics	2	A2	坂口 翔政	

0704316	流通経営	2	A1A2	宮副 謙司	
0704352	* グローバル・ベンチャリングⅡ	2	S2	中野 剛治	
0704353	* ICTマネジメントⅡ	2	A1	生稲 史彦	
0704354	* 経営学特論（経営学研究法）	2	A1A2	各教員（経営学コース）	
0704401	経済思想史	2	S1S2	牧野 邦昭	
0704420	現代日本経済史Ⅱ	2	A2	岡崎 哲二	
0704422	近代日本経済史Ⅱ	2	S2	谷本 雅之	
0704452	* Institutional Analysis of Japanese Economy I	2	S1S2	中林 真幸	合併（公共）
0704453	* Institutional Analysis of Japanese Economy II	2	A1A2	中林 真幸	合併（公共）
0704455	* Historical Political Economy	2	A1A2	佐々木 優	
0704501	経済データ分析	2	S1S2	大森 裕浩	
0704536	産業事情「エネルギー市場/コモディティ市場」	2	S1S2	石崎・山岡	
0705021	* ビジネスエコノミクス	2	A2	柳川 範之	
0705022-01	* Financial System I（金融システム論Ⅰ）	2	S1	星 岳雄	合併（公共）
0705023	* 金融政策	2	S1	青木 浩介	合併（公共）
0705031	* 国際経営Ⅱ	2	S2	大木 清弘	合併（法学）
0705032	* 技術経営Ⅱ	2	A2	桑嶋 健一	
0705562	* 保険数理Ⅱ	2	S1S2	岩沢 宏和	
0705563	* 保険数理Ⅲ	2	A1A2	松平 直之	
0705564	* 実証ファイナンス	2	A2	津田 博史	
0705565	* 上級デリバティブ演習Ⅰ	2	S1S2	藤井 優成	
0705566	* 数量ファイナンス特論Ⅱ（c++プログラミングによるデリバティブ・プライシング）	2	A1A2	高田 勝己	
0705567	* 数量ファイナンスⅡ	2	A1A2	中里 宗敬	
0705568	* 財務会計Ⅱ	2	S2	大日方 隆	
0705569	* 管理会計Ⅱ	2	S2	首藤 昭信	
0705571	* 上級デリバティブ	2	S1S2	中里 大輔	
0705573	* インベストメント	2	S1S2	山内 英貴	
0705574	* コーポレート・ガバナンス	2	A1A2	江川 雅子	
0705576	* 数量ファイナンス特論Ⅰ（証券投資：理論と実践）	2	A1A2	小松 高広	
0705577	* アクチュアリーワークショップⅠ	2	S1S2	岩沢 宏和	
0705578	* アクチュアリーワークショップⅡ	2	A1A2	岩沢 宏和	
0705579	* ファイナンスのための確率Ⅰ	2	S1S2	尾張 圭太	
0705701	* 数学Ⅰ	2	S1S2	大森 裕浩	
0705702	* 数学Ⅱ	2	S1	尾山 大輔	
0705703	民法（1）	2	S1S2	山下 純司	
0705704	民法（2）	4	S1S2	森田 修	合併（法学）
0705705	行政法	4	S1S2	北島 周作	合併（法学）
0705706	労働法	4	A1A2	荒木 尚志	合併（法学）
0705707	商法（1）	4	S1S2	松井 智予	合併（法学）
0705708	商法（2）	4	S1S2	飯田 秀総	合併（法学）
0705709	商法（3）	4	A1A2	後藤 元	合併（法学）
0705710	経済法	4	A1A2	VANDE WALLE, Simon A.W.	合併（法学・公共・法学系）

0705712	日本政治史	4	S1S2	五百旗頭 薫	合併 (法学)
0705713	日本政治	4	S1S2	境家 史郎	合併 (法学)

【備考（上記表中）】

1. 「共1」は専門科目2・専門科目3・専門科目4、「共2」は専門科目2・専門科目4、「共3」は専門科目3・専門科目4、との共通科目を表す。
2. 「\*」は、学部学生の履修を認める大学院科目を表す。
3. 「駒場開講」は、持出専門科目となっている科目を表し、教養学部前期課程の授業日程により開講する。
4. 「合併」は、法学は法学部、公共は公共政策大学院、法学系は法学政治学研究科、総文は総合文化研究科との合併科目を表す。そのうち、二重下線のある科目は、当該部局の授業日程により開講する。

令和5（2023）年度開講予定科目・授業担当者表

【令和2（2020）年度の経済学部進学者用】

区分	時間割コード	授業科目名	単位数	学期	担当者	備考
専門科目1（学科共通選択必修）						
	0701101-01	経済原論Ⅰ	2	S1	江原 慶	
	0701101-02	経済原論Ⅱ	2	S2	江原 慶	
	0701102-01	ミクロ経済学Ⅰ	2	A1	松島 斉	駒場開講
	0701102-02	ミクロ経済学Ⅱ	2	A2	松島 斉	駒場開講
	0701103-01	マクロ経済学Ⅰ	2	A1	楡井 誠	駒場開講
	0701103-02	マクロ経済学Ⅱ	2	A2	中嶋 智之	駒場開講
	0701104-01	統計Ⅰ	2	A1	久保川 達也	駒場開講／合併（法学）
	0701104-02	統計Ⅱ	2	A2	久保川 達也	駒場開講／合併（法学）
	0701301-01	経営	2	A1	稲水 伸行	駒場開講
	0701302-01	ファイナンス	2	A2	佐藤 整尚	駒場開講
	0701302-02	ゲーム理論	2	S1	高橋 悟	
	0701303-01	会計	2	A1	米山 正樹	駒場開講
	0701401-01	経済史Ⅰ	2	A2	岡崎・城山	駒場開講
	0701401-02	経済史Ⅱ	2	S1	石原 俊時	
専門科目2（経済学科選択必修）						
	0702101-01	経済学史Ⅰ	2	A1	野原 慎司	
	0702102-01	共1 計量経済学Ⅰ	2	A1	下津 克己	
	0702104-01	現代資本主義論Ⅰ	2	S1	岩田 佳久	
	0702105-01	共2 数理統計Ⅰ	2	S1	川久保 友超	
	0702110	共2 * メカニズム・デザイン	2	A1	松島 斉	
	0702201-01	日本経済Ⅰ	2	S1S2	星 岳雄	
	0702202-01	共2 * 財政Ⅰ	2	S1	別所 俊一郎	
	0702203-01	共2 金融Ⅰ	2	S1	福田・随	合併（法学）
	0702204-01	共1 産業組織Ⅰ	2	S1	大橋 弘	
	0702206-01	* 労働経済Ⅰ	2	A1	山口 慎太郎	合併（法学）
	0702207-01	都市経済Ⅰ	2	A1	中川 万理子	
	0702208-01	国際経済Ⅰ	2	S1	古澤 泰治	合併（法学）
	0702209-01	開発経済Ⅰ	2	S1	澤田 康幸	
	0702212	共1 国際金融	2	A1A2	青木 浩介	
	0702401-01	現代日本経済史Ⅰ	2	A1	岡崎 哲二	
	0702402-01	現代西洋経済史Ⅰ	2	A1	永山 のどか	
	0702403-01	近代日本経済史Ⅰ	2	S1	谷本 雅之	
	0702404	アジア経済史	2	A2	城山 智子	
	0704015	共1 * 経済学のための数学	2	S1S2	松井 彰彦	
専門科目3（経営学科選択必修）						
	0702102-01	共1 計量経済学Ⅰ	2	A1	下津 克己	
	0702204-01	共1 産業組織Ⅰ	2	S1	大橋 弘	



0702212	共1	国際金融	2	A1A2	青木 浩介	
0703302-01	共3	経営戦略 I	2	A2	新宅 純二郎	
0703305-01	共3	経営史 I	2	S1	山本 浩司	
0703306-01	共3	日本経営史 I	2	A1	粕谷 誠	
0703307-01	共3	マーケティング I	2	S1	目黒 良門	
0703308-01		経営科学 I	2	A1	北上 靖大	
0703309-01	共3	財務会計 I	2	S1	大日方 隆	
0703310-01	共3	管理会計 I	2	S1	首藤 昭信	
0703314-01		技術経営 I	2	A1	桑嶋 健一	
0703316		ICTマネジメント I	2	S1	高井 文子	
0703317		フード・システム I	2	S1	元木 康介	
0703318		グローバル・ベンチャリング I	2	A1	中野 剛治	
0703319	共3	生産システム I	2	S2	福澤 光啓	
0703320	共3	雇用システム I	2	A2	禹 宗杭	
0703321	共3	経営管理 I	2	A1	舟津 昌平	
0704015	共1	* 経済学のための数学	2	S1S2	松井 彰彦	
0704311-01		国際経営 I	2	S1	大木 清弘	合併（法学）
0704706	共3	経営財務 I	2	A1A2	山本 功	
専門科目 4（金融学科選択必修）						
0702102-01	共1	計量経済学 I	2	A1	下津 克己	
0702105-01	共2	数理統計 I	2	S1	川久保 友超	
0702110	共2	* メカニズム・デザイン	2	A1	松島 斉	
0702202-01	共2	* 財政 I	2	S1	別所 俊一郎	
0702203-01	共2	金融 I	2	S1	福田・随	合併（法学）
0702204-01	共1	産業組織 I	2	S1	大橋 弘	
0702212	共1	国際金融	2	A1A2	青木 浩介	
0703302-01	共3	経営戦略 I	2	A2	新宅 純二郎	
0703305-01	共3	経営史 I	2	S1	山本 浩司	
0703306-01	共3	日本経営史 I	2	A1	粕谷 誠	
0703307-01	共3	マーケティング I	2	S1	目黒 良門	
0703309-01	共3	財務会計 I	2	S1	大日方 隆	
0703310-01	共3	管理会計 I	2	S1	首藤 昭信	
0703319	共3	生産システム I	2	S2	福澤 光啓	
0703320	共3	雇用システム I	2	A2	禹 宗杭	
0703321	共3	経営管理 I	2	A1	舟津 昌平	
0704015	共1	* 経済学のための数学	2	S1S2	松井 彰彦	
0704703-01		* 保険数理 I	2	S1S2	森本 祐司	
0704706	共3	経営財務 I	2	A1A2	山本 功	
0704753		* 金融機関のリスク管理	2	S1S2	池森 俊文	
0704806-01		プログラミング	2	S1S2	白谷 健一郎	
0705503		* デリバティブ	2	S1S2	藤井 優成	

選択科目						
0704012-01	* 上級ミクロ経済学 I	2	S1S2	松井 彰彦		
0704012-02	* 上級ミクロ経済学 II	2	A1A2	神取 道宏		
0704013-01	* 上級マクロ経済学 I	2	S1S2	LEE Hanbaek		
0704013-02	* 上級マクロ経済学 II	2	A1A2	北尾 早霧		
0704016	* 数理経済学	2	S2	尾山 大輔		
0704019	* 経済学方法論	2	A1A2	有江 大介		
0704020	* 上級経済原論	2	A1	結城 剛志		
0704026	障害と経済	2	A1A2	松井 彰彦		
0704033	* 経営管理特論	2	S1S2	新宅・稲水・大木		
0704034	* 経営戦略特論	2	A1A2	新宅・稲水・大木		
0704041	* 上級日本経済史 I	2	S1S2	森本 真世		
0704042-02	* 上級西洋経済史 II	2	A1A2	石原 俊時		
0704050	* 政治経済学	2	A1A2	原谷 直樹		
0704056-01	* 上級計量経済学 I	2	S1	奥井 亮		
0704056-02	* 上級計量経済学 II	2	S2	市村 英彦		
0704068	* 上級開発経済	2	S2	澤田 康幸	合併 (公共・総文)	
0704071	* 経営管理 II	2	A2	舟津 昌平		
0704072	* フード・システム II	2	S2	元木 康介		
0704074	* 経営戦略 II	2	S1	新宅 純二郎		
0704076	* 経営史 II	2	S2	山本 浩司		
0704077	* 日本経営史 II	2	A2	粕谷 誠		
0704079	* 経営科学 II	2	A2	稲水 伸行		
0704081	* 上級日本経済史 II	2	A1A2	小島 庸平		
0704082	* 上級アジア経済史	2	A1A2	城山 智子		
0704115	経済学史 II	2	A2	野原 慎司		
0704116	計量経済学 II	2	A2	下津 克己		
0704117	現代資本主義論 II	2	S2	岩田 佳久		
0704118	数理統計 II	2	S2	川久保 友超		
0704122	文科系のための線形代数・解析 I	2	S1	藤堂・松尾・島田		
0704123	文科系のための線形代数・解析 II	2	S2	藤堂・松尾・島田		
0704133	* 上級経済学史	2	S1S2	野原 慎司		
0704134	* 社会・経済思想	2	A1A2	野原 慎司		
0704152	経済統計	2	S1S2	肥後 雅博		
0704153	人口統計	2	S1S2	金子 隆一		
0704154	* 応用経済統計	2	A1A2	肥後 雅博		
0704162-01	* 上級数理統計 I	2	S1	久保川 達也		
0704162-02	* 上級数理統計 II	2	S2	入江 薫		
0704169	* Advanced Time Series Analysis (上級時系列分析)	2	A1A2	新谷 元嗣	合併 (公共)	
0704170	* Empirical analysis of dynamic macroeconomic models	2	S1S2	新谷 元嗣	合併 (公共)	
0704174	* Big Tech and Competition Law: How Has Competition Law Dealt with GAFA?	2	A1A2	VANDE WALLE, Simon A.W.	合併 (法学系・法学・公共)	
0704175	マーケットデザイン	2	A1A2	野田 俊也		

0704176	* Advanced Topics in Matching Theory and Market Design	2	A1A2	小島 武仁	
0704177	* マクロ経済動学	2	S1S2	楡井 誠	
0704178	* Topics in Macroeconomic Theory	2	S1S2	中嶋 智之	
0704180	経済学とコンピューターサイエンス I	2	S1S2	坂口 翔政	
0704181	経済学とコンピューターサイエンス II	2	A1A2	坂口 翔政	
0704182	* グリーンエネルギー論	2	S1S2	杉山 正和	合併 (公共)
0704184	* Applied Econometrics	2	S2	SON Suk Joon	合併 (公共)
0704185	* Discrete Choice Models	2	A1	SON Suk Joon	合併 (公共)
0704187	* Game Theory I	2	A1	尾山 大輔	
0704188	* Game Theory II	2	A2	高橋 悟	
0704201	規制の経済学	2	A1A2	松村 敏弘	合併 (公共)
0704202	* 政府間財政	2	A1	林 正義	
0704203	* 社会保障	2	A1	別所 俊一郎	
0704222	エネルギー政策	2	S1S2	有馬・小山	合併 (公共)
0704223	環境政策	2	A1A2	有馬 純	合併 (公共)
0704232	日本経済 II	2	A1	星 岳雄	合併 (公共・総文)
0704233	* 財政 II	2	S2	林 正義	
0704234	金融 II	2	S2	福田・田中	合併 (法学)
0704236	* 労働経済 I	2	A2	山口 慎太郎	合併 (法学)
0704238	国際経済 II	2	S2	西岡 修一郎	合併 (法学)
0704241	再生可能エネルギーと公共政策	2	S1S2	有馬 純	合併 (公共)
0704242	金融市場と公共政策	2	S1S2	池田 宜睦	合併 (公共)
0704243	Japan's Modernization Experience and Its ODA Policy	2	S1S2	高原 明生	合併 (公共・法学)
0704244	政策担当者が語る日本の財政金融論	2	S1S2	服部・仲	合併 (公共)
0704247	* インフレーションと金融政策	2	A1A2	渡辺 努	合併 (公共)
0704248	日本の未来と個人の役割	2	S1S2	宗像 直子	合併 (公共・法学)
0704252	* 上級世界経済 I	2	S1S2	丸川・小野塚・野原	
0704253	* 上級世界経済 II	2	A1A2	中西・丸川・伊藤	
0704254	* Data Science for Practical Economic Research	2	S1S2	Kucheryavyy Konstantin	合併 (公共)
0704256	* 上級労働経済学	2	S1S2	川田 恵介	合併 (公共)
0704258	* Political Economics	2	S1	WEESE・渡辺	合併 (公共)
0704261	* 上級労働経済学 II	2	A1A2	川口 大司	合併 (公共)
0704262	* Topics in Political Economics	2	S2	渡辺・WEESE	合併 (公共)
0704264	* Essential Academic Skills	2	A1A2	LOU Yichuan	合併 (公共)
0704265	* Topics in Empirical Microeconomics	2	A1A2	SON Suk Joon	合併 (公共)
0704266	* Economic Analysis of Pandemics	2	S1S2	岩本・仲田	合併 (公共)
0704267	* Topics in Labor Economics	2	S1S2	山口 慎太郎	合併 (公共)
0704268	* Readings in Macroeconomic Theory	2	S1S2	楡井・中嶋	
0704269	* Probability Theory and Applications to Economic Theory	2	S1S2	高橋 悟	
0704270	* Machine Learning for Economics	2	A2	坂口 翔政	
0704316	流通経営	2	A1A2	宮副 謙司	
0704352	* グローバル・ベンチャリング II	2	S2	中野 剛治	

0704353	* ICTマネジメントII	2	A1	生稲 史彦	
0704354	* 経営学特論(経営学研究法)	2	A1A2	各教員(経営学コース)	
0704401	経済思想史	2	S1S2	牧野 邦昭	
0704420	現代日本経済史II	2	A2	岡崎 哲二	
0704422	近代日本経済史II	2	S2	谷本 雅之	
0704452	* Institutional Analysis of Japanese Economy I	2	S1S2	中林 真幸	合併(公共)
0704453	* Institutional Analysis of Japanese Economy II	2	A1A2	中林 真幸	合併(公共)
0704455	* Historical Political Economy	2	A1A2	佐々木 優	
0704501	経済データ分析	2	S1S2	大森 裕浩	
0704536	産業事情「エネルギー市場/コモディティ市場」	2	S1S2	石崎・山岡	
0705021	* ビジネスエコノミクス	2	A2	柳川 範之	
0705022-01	* Financial System I(金融システム論I)	2	S1	星 岳雄	合併(公共)
0705023	* 金融政策	2	S1	青木 浩介	合併(公共)
0705031	* 国際経営II	2	S2	大木 清弘	合併(法学)
0705032	* 技術経営II	2	A2	桑嶋 健一	
0705562	* 保険数理II	2	S1S2	岩沢 宏和	
0705563	* 保険数理III	2	A1A2	松平 直之	
0705564	* 実証ファイナンス	2	A2	津田 博史	
0705565	* 上級デリバティブ演習I	2	S1S2	藤井 優成	
0705566	* 数量ファイナンス特論II(c++プログラミングによるデリバティブ・プライシング)	2	A1A2	高田 勝己	
0705567	* 数量ファイナンスII	2	A1A2	中里 宗敬	
0705568	* 財務会計II	2	S2	大日方 隆	
0705569	* 管理会計II	2	S2	首藤 昭信	
0705571	* 上級デリバティブ	2	S1S2	中里 大輔	
0705573	* インベストメント	2	S1S2	山内 英貴	
0705574	* コーポレート・ガバナンス	2	A1A2	江川 雅子	
0705576	* 数量ファイナンス特論I(証券投資:理論と実践)	2	A1A2	小松 高広	
0705577	* アクチュアリーワークショップI	2	S1S2	岩沢 宏和	
0705578	* アクチュアリーワークショップII	2	A1A2	岩沢 宏和	
0705579	* ファイナンスのための確率I	2	S1S2	尾張 圭太	
0705701	* 数学I	2	S1S2	大森 裕浩	
0705702	* 数学II	2	S1	尾山 大輔	
0705703	民法(1)	2	S1S2	山下 純司	
0705704	民法(2)	4	S1S2	森田 修	合併(法学)
0705705	行政法	4	S1S2	北島 周作	合併(法学)
0705706	労働法	4	A1A2	荒木 尚志	合併(法学)
0705707	商法(1)	4	S1S2	松井 智予	合併(法学)
0705708	商法(2)	4	S1S2	飯田 秀総	合併(法学)
0705709	商法(3)	4	A1A2	後藤 元	合併(法学)
0705710	経済法	4	A1A2	VANDE WALLE, Simon A.W.	合併(法学・公共・法学系)
0705712	日本政治史	4	S1S2	五百簞頭 薫	合併(法学)
0705713	日本政治	4	S1S2	境家 史郎	合併(法学)

【備考（上記表中）】

1. 「共1」は専門科目2・専門科目3・専門科目4、「共2」は専門科目2・専門科目4、「共3」は専門科目3・専門科目4、との共通科目を表す。
2. 「\*」は、学部学生の履修を認める大学院科目を表す。
3. 「駒場開講」は、持出専門科目となっている科目を表し、教養学部前期課程の授業日程により開講する。
4. 「合併」は、法学は法学部、公共は公共政策大学院、法学系は法学政治学研究科、総文は総合文化研究科との合併科目を表す。そのうち、二重下線のある科目は、当該部局の授業日程により開講する。

令和5（2023）年度開講予定科目・授業担当者表

【令和3（2021）年度以降の経済学部進学者用】

区分	時間割コード	授業科目名	単位数	学期	担当者	備考
専門科目1（学科共通選択必修）						
	0701102-01	ミクロ経済学Ⅰ	2	A1	松島 斉	駒場開講
	0701102-02	ミクロ経済学Ⅱ	2	A2	松島 斉	駒場開講
	0701103-01	マクロ経済学Ⅰ	2	A1	楡井 誠	駒場開講
	0701103-02	マクロ経済学Ⅱ	2	A2	中嶋 智之	駒場開講
	0701104-01	統計Ⅰ	2	A1	久保川 達也	駒場開講／合併（法学）
	0701104-02	統計Ⅱ	2	A2	久保川 達也	駒場開講／合併（法学）
	0701301-01	経営	2	A1	稲水 伸行	駒場開講
	0701302-01	ファイナンス	2	A2	佐藤 整尚	駒場開講
	0701302-02	ゲーム理論	2	S1	高橋 悟	
	0701303-01	会計	2	A1	米山 正樹	駒場開講
	0701401-01	経済史Ⅰ	2	A2	岡崎・城山	駒場開講
	0701401-02	経済史Ⅱ	2	S1	石原 俊時	
専門科目2（経済学科選択必修）						
	0702101-01	経済学史Ⅰ	2	A1	野原 慎司	
	0702102-01	共1 計量経済学Ⅰ	2	A1	下津 克己	
	0702104-01	現代資本主義論Ⅰ	2	S1	岩田 佳久	
	0702105-01	共2 数理統計Ⅰ	2	S1	川久保 友超	
	0702110	共2 * メカニズム・デザイン	2	A1	松島 斉	
	0702201-01	日本経済Ⅰ	2	S1S2	星 岳雄	
	0702202-01	共2 * 財政Ⅰ	2	S1	別所 俊一郎	
	0702203-01	共2 金融Ⅰ	2	S1	福田・随	合併（法学）
	0702204-01	共1 産業組織Ⅰ	2	S1	大橋 弘	
	0702206-01	* 労働経済Ⅰ	2	A1	山口 慎太郎	合併（法学）
	0702207-01	都市経済Ⅰ	2	A1	中川 万理子	
	0702208-01	国際経済Ⅰ	2	S1	古澤 泰治	合併（法学）
	0702209-01	開発経済Ⅰ	2	S1	澤田 康幸	
	0702212	共1 国際金融	2	A1A2	青木 浩介	
	0702401-01	現代日本経済史Ⅰ	2	A1	岡崎 哲二	
	0702402-01	現代西洋経済史Ⅰ	2	A1	永山 のどか	
	0702403-01	近代日本経済史Ⅰ	2	S1	谷本 雅之	
	0702404	アジア経済史	2	A2	城山 智子	
	0704015	共1 * 経済学のための数学	2	S1S2	松井 彰彦	
専門科目3（経営学科選択必修）						
	0702102-01	共1 計量経済学Ⅰ	2	A1	下津 克己	
	0702204-01	共1 産業組織Ⅰ	2	S1	大橋 弘	
	0702212	共1 国際金融	2	A1A2	青木 浩介	
	0703302-01	共3 経営戦略Ⅰ	2	A2	新宅 純二郎	

0703305-01	共3	経営史 I	2	S1	山本 浩司	
0703306-01	共3	日本経営史 I	2	A1	粕谷 誠	
0703307-01	共3	マーケティング I	2	S1	目黒 良門	
0703308-01		経営科学 I	2	A1	北上 靖大	
0703309-01	共3	財務会計 I	2	S1	大日方 隆	
0703310-01	共3	管理会計 I	2	S1	首藤 昭信	
0703314-01		技術経営 I	2	A1	桑嶋 健一	
0703316		ICTマネジメント I	2	S1	高井 文子	
0703317		フード・システム I	2	S1	元木 康介	
0703318		グローバル・ベンチャリング I	2	A1	中野 剛治	
0703319	共3	生産システム I	2	S2	福澤 光啓	
0703320	共3	雇用システム I	2	A2	禹 宗杭	
0703321	共3	経営管理 I	2	A1	舟津 昌平	
0704015	共1	* 経済学のための数学	2	S1S2	松井 彰彦	
0704311-01		国際経営 I	2	S1	大木 清弘	合併 (法学)
0704706	共3	経営財務 I	2	A1A2	山本 功	
専門科目 4 (金融学科選択必修)						
0702102-01	共1	計量経済学 I	2	A1	下津 克己	
0702105-01	共2	数理統計 I	2	S1	川久保 友超	
0702110	共2	* メカニズム・デザイン	2	A1	松島 斉	
0702202-01	共2	* 財政 I	2	S1	別所 俊一郎	
0702203-01	共2	金融 I	2	S1	福田・随	合併 (法学)
0702204-01	共1	産業組織 I	2	S1	大橋 弘	
0702212	共1	国際金融	2	A1A2	青木 浩介	
0703302-01	共3	経営戦略 I	2	A2	新宅 純二郎	
0703305-01	共3	経営史 I	2	S1	山本 浩司	
0703306-01	共3	日本経営史 I	2	A1	粕谷 誠	
0703307-01	共3	マーケティング I	2	S1	目黒 良門	
0703309-01	共3	財務会計 I	2	S1	大日方 隆	
0703310-01	共3	管理会計 I	2	S1	首藤 昭信	
0703319	共3	生産システム I	2	S2	福澤 光啓	
0703320	共3	雇用システム I	2	A2	禹 宗杭	
0703321	共3	経営管理 I	2	A1	舟津 昌平	
0704015	共1	* 経済学のための数学	2	S1S2	松井 彰彦	
0704703-01		* 保険数理 I	2	S1S2	森本 祐司	
0704706	共3	経営財務 I	2	A1A2	山本 功	
0704753		* 金融機関のリスク管理	2	S1S2	池森 俊文	
0704806-01		プログラミング	2	S1S2	白谷 健一郎	
0705503		* デリバティブ	2	S1S2	藤井 優成	
選択科目						
0704012-01		* 上級ミクロ経済学 I	2	S1S2	松井 彰彦	

0704012-02	* 上級ミクロ経済学Ⅱ	2	A1A2	神取 道宏	
0704013-01	* 上級マクロ経済学Ⅰ	2	S1S2	LEE Hanbaek	
0704013-02	* 上級マクロ経済学Ⅱ	2	A1A2	北尾 早霧	
0704016	* 数理経済学	2	S2	尾山 大輔	
0704019	* 経済学方法論	2	A1A2	有江 大介	
0704020	* 上級経済原論	2	A1	結城 剛志	
0704026	障害と経済	2	A1A2	松井 彰彦	
0704033	* 経営管理特論	2	S1S2	新宅・稲水・大木	
0704034	* 経営戦略特論	2	A1A2	新宅・稲水・大木	
0704041	* 上級日本経済史Ⅰ	2	S1S2	森本 真世	
0704042-02	* 上級西洋経済史Ⅱ	2	A1A2	石原 俊時	
0704050	* 政治経済学	2	A1A2	原谷 直樹	
0704056-01	* 上級計量経済学Ⅰ	2	S1	奥井 亮	
0704056-02	* 上級計量経済学Ⅱ	2	S2	市村 英彦	
0704068	* 上級開発経済	2	S2	澤田 康幸	合併（公共・総文）
0704071	* 経営管理Ⅱ	2	A2	舟津 昌平	
0704072	* フード・システムⅡ	2	S2	元木 康介	
0704074	* 経営戦略Ⅱ	2	S1	新宅 純二郎	
0704076	* 経営史Ⅱ	2	S2	山本 浩司	
0704077	* 日本経営史Ⅱ	2	A2	粕谷 誠	
0704079	* 経営科学Ⅱ	2	A2	稲水 伸行	
0704081	* 上級日本経済史Ⅱ	2	A1A2	小島 庸平	
0704082	* 上級アジア経済史	2	A1A2	城山 智子	
0704115	経済学史Ⅱ	2	A2	野原 慎司	
0704116	計量経済学Ⅱ	2	A2	下津 克己	
0704117	現代資本主義論Ⅱ	2	S2	岩田 佳久	
0704118	数理統計Ⅱ	2	S2	川久保 友超	
0704122	文科系のための線形代数・解析Ⅰ	2	S1	藤堂・松尾・島田	
0704123	文科系のための線形代数・解析Ⅱ	2	S2	藤堂・松尾・島田	
0704131	経済原論Ⅰ	2	S1	江原 慶	
0704132	経済原論Ⅱ	2	S2	江原 慶	
0704133	* 上級経済学史	2	S1S2	野原 慎司	
0704134	* 社会・経済思想	2	A1A2	野原 慎司	
0704152	経済統計	2	S1S2	肥後 雅博	
0704153	人口統計	2	S1S2	金子 隆一	
0704154	* 応用経済統計	2	A1A2	肥後 雅博	
0704162-01	* 上級数理統計Ⅰ	2	S1	久保川 達也	
0704162-02	* 上級数理統計Ⅱ	2	S2	入江 薫	
0704169	* Advanced Time Series Analysis（上級時系列分析）	2	A1A2	新谷 元嗣	合併（公共）
0704170	* Empirical analysis of dynamic macroeconomic models	2	S1S2	新谷 元嗣	合併（公共）
0704174	* Big Tech and Competition Law: How Has Competition Law Dealt with GAFA?	2	A1A2	VANDE WALLE, Simon A.W.	合併（法学系・法学・公共）
0704175	マーケットデザイン	2	A1A2	野田 俊也	



0704176	* Advanced Topics in Matching Theory and Market Design	2	A1A2	小島 武仁	
0704177	* マクロ経済動学	2	S1S2	楡井 誠	
0704178	* Topics in Macroeconomic Theory	2	S1S2	中嶋 智之	
0704180	経済学とコンピューターサイエンス I	2	S1S2	坂口 翔政	
0704181	経済学とコンピューターサイエンス II	2	A1A2	坂口 翔政	
0704182	* グリーンエネルギー論	2	S1S2	杉山 正和	合併 (公共)
0704184	* Applied Econometrics	2	S2	SON Suk Joon	合併 (公共)
0704185	* Discrete Choice Models	2	A1	SON Suk Joon	合併 (公共)
0704187	* Game Theory I	2	A1	尾山 大輔	
0704188	* Game Theory II	2	A2	高橋 悟	
0704201	規制の経済学	2	A1A2	松村 敏弘	合併 (公共)
0704202	* 政府間財政	2	A1	林 正義	
0704203	* 社会保障	2	A1	別所 俊一郎	
0704222	エネルギー政策	2	S1S2	有馬・小山	合併 (公共)
0704223	環境政策	2	A1A2	有馬 純	合併 (公共)
0704232	日本経済 II	2	A1	星 岳雄	合併 (公共・総文)
0704233	* 財政 II	2	S2	林 正義	
0704234	金融 II	2	S2	福田・田中	合併 (法学)
0704236	* 労働経済 II	2	A2	山口 慎太郎	合併 (法学)
0704238	国際経済 II	2	S2	西岡 修一郎	合併 (法学)
0704241	再生可能エネルギーと公共政策	2	S1S2	有馬 純	合併 (公共)
0704242	金融市場と公共政策	2	S1S2	池田 宜睦	合併 (公共)
0704243	Japan's Modernization Experience and Its ODA Policy	2	S1S2	高原 明生	合併 (公共・法学)
0704244	政策担当者が語る日本の財政金融論	2	S1S2	服部・仲	合併 (公共)
0704247	* インフレーションと金融政策	2	A1A2	渡辺 努	合併 (公共)
0704248	日本の未来と個人の役割	2	S1S2	宗像 直子	合併 (公共・法学)
0704252	* 上級世界経済 I	2	S1S2	丸川・小野塚・野原	
0704253	* 上級世界経済 II	2	A1A2	中西・丸川・伊藤	
0704254	* Data Science for Practical Economic Research	2	S1S2	Kucheryavyy Konstantin	合併 (公共)
0704256	* 上級労働経済学	2	S1S2	川田 恵介	合併 (公共)
0704258	* Political Economics	2	S1	WEESE・渡辺	合併 (公共)
0704261	* 上級労働経済学 II	2	A1A2	川口 大司	合併 (公共)
0704262	* Topics in Political Economics	2	S2	渡辺・WEESE	合併 (公共)
0704264	* Essential Academic Skills	2	A1A2	LOU Yichuan	合併 (公共)
0704265	* Topics in Empirical Microeconomics	2	A1A2	SON Suk Joon	合併 (公共)
0704266	* Economic Analysis of Pandemics	2	S1S2	岩本・仲田	合併 (公共)
0704267	* Topics in Labor Economics	2	S1S2	山口 慎太郎	合併 (公共)
0704268	* Readings in Macroeconomic Theory	2	S1S2	楡井・中嶋	
0704269	* Probability Theory and Applications to Economic Theory	2	S1S2	高橋 悟	
0704270	* Machine Learning for Economics	2	A2	坂口 翔政	
0704316	流通経営	2	A1A2	宮副 謙司	
0704352	* グローバル・ベンチャリング II	2	S2	中野 剛治	

0704353	* ICTマネジメントII	2	A1	生稲 史彦	
0704354	* 経営学特論(経営学研究法)	2	A1A2	各教員(経営学コース)	
0704401	経済思想史	2	S1S2	牧野 邦昭	
0704420	現代日本経済史II	2	A2	岡崎 哲二	
0704422	近代日本経済史II	2	S2	谷本 雅之	
0704452	* Institutional Analysis of Japanese Economy I	2	S1S2	中林 真幸	合併(公共)
0704453	* Institutional Analysis of Japanese Economy II	2	A1A2	中林 真幸	合併(公共)
0704455	* Historical Political Economy	2	A1A2	佐々木 優	
0704501	経済データ分析	2	S1S2	大森 裕浩	
0704536	産業事情「エネルギー市場/コモディティ市場」	2	S1S2	石崎・山岡	
0705021	* ビジネスエコノミクス	2	A2	柳川 範之	
0705022-01	* Financial System I(金融システム論I)	2	S1	星 岳雄	合併(公共)
0705023	* 金融政策	2	S1	青木 浩介	合併(公共)
0705031	* 国際経営II	2	S2	大木 清弘	合併(法学)
0705032	* 技術経営II	2	A2	桑嶋 健一	
0705562	* 保険数理II	2	S1S2	岩沢 宏和	
0705563	* 保険数理III	2	A1A2	松平 直之	
0705564	* 実証ファイナンス	2	A2	津田 博史	
0705565	* 上級デリバティブ演習I	2	S1S2	藤井 優成	
0705566	* 数量ファイナンス特論II(c++プログラミングによるデリバティブ・プライシング)	2	A1A2	高田 勝己	
0705567	* 数量ファイナンスII	2	A1A2	中里 宗敬	
0705568	* 財務会計II	2	S2	大日方 隆	
0705569	* 管理会計II	2	S2	首藤 昭信	
0705571	* 上級デリバティブ	2	S1S2	中里 大輔	
0705573	* インベストメント	2	S1S2	山内 英貴	
0705574	* コーポレート・ガバナンス	2	A1A2	江川 雅子	
0705576	* 数量ファイナンス特論I(証券投資:理論と実践)	2	A1A2	小松 高広	
0705577	* アクチュアリーワークショップI	2	S1S2	岩沢 宏和	
0705578	* アクチュアリーワークショップII	2	A1A2	岩沢 宏和	
0705579	* ファイナンスのための確率I	2	S1S2	尾張 圭太	
0705701	* 数学I	2	S1S2	大森 裕浩	
0705702	* 数学II	2	S1	尾山 大輔	
0705703	民法(1)	2	S1S2	山下 純司	
0705704	民法(2)	4	S1S2	森田 修	合併(法学)
0705705	行政法	4	S1S2	北島 周作	合併(法学)
0705706	労働法	4	A1A2	荒木 尚志	合併(法学)
0705707	商法(1)	4	S1S2	松井 智予	合併(法学)
0705708	商法(2)	4	S1S2	飯田 秀総	合併(法学)
0705709	商法(3)	4	A1A2	後藤 元	合併(法学)
0705710	経済法	4	A1A2	VANDE WALLE, Simon A.W.	合併(法学・公共・法学系)
0705712	日本政治史	4	S1S2	五百簞頭 薫	合併(法学)
0705713	日本政治	4	S1S2	境家 史郎	合併(法学)

【備考（上記表中）】

1. 「共1」は専門科目2・専門科目3・専門科目4、「共2」は専門科目2・専門科目4、「共3」は専門科目3・専門科目4、との共通科目を表す。
2. 「\*」は、学部学生の履修を認める大学院科目を表す。
3. 「駒場開講」は、持出専門科目となっている科目を表し、教養学部前期課程の授業日程により開講する。
4. 「合併」は、法学は法学部、公共は公共政策大学院、法学系は法学政治学研究科、総文は総合文化研究科との合併科目を表す。そのうち、二重下線のある科目は、当該部局の授業日程により開講する。



## 時間割（専門科目 1）

※ 時間割は変更となる場合があるので、掲示及び経済学部 WEB サイト「学生向け情報」を随時確認すること。専門科目 1 以外の科目の時間割は、掲示及び経済学部 WEB サイト「学生向け情報」を参照すること。

<http://www.student.e.u-tokyo.ac.jp/jikanwari.html>

# 令和5（2023）年度「専門科目1」時間割及び授業日程

< 「令和2（2020）年度以前の経済学部進学者」を対象 >

## 【S1ターム】

	1限(08:30~10:15)	2限(10:25~12:10)	3限(13:00~14:45)	4限(14:55~16:40)	5限(16:50~18:35)
月曜日		経済史Ⅱ 石原 俊時			
火曜日		ゲーム理論 高橋 悟			
	経済原論Ⅰ	江原 慶			
水曜日					
木曜日		経済史Ⅱ 石原 俊時			
金曜日		ゲーム理論 高橋 悟			

授業期間（経済学部）： 4月 5日（水）～ 5月26日（金）

※ 4月12日（火）は、授業休止。

※ 5月12日（金）は、授業休止。

試験期間（経済学部）： 5月29日（月）、5月30日（火）、5月31日（水）、  
6月1日（木）、6月2日（金）

# 当該試験期間内に対象となる全ての授業科目の試験の時間割を調整できない場合、一部の授業科目については、6/3(土)、6/4(日)にも行う。

## 【S2ターム】

	1限(08:30~10:15)	2限(10:25~12:10)	3限(13:00~14:45)	4限(14:55~16:40)	5限(16:50~18:35)
月曜日					
火曜日	経済原論Ⅱ	江原 慶			
水曜日					
木曜日					
金曜日					

授業期間（経済学部）： 6月 5日（月）～ 7月21日（金）

試験期間（経済学部）： 7月24日（月）、7月25日（火）、7月26日（水）、  
7月27日（木）、7月28日（金）

# 当該試験期間内に対象となる全ての授業科目の試験の時間割を調整できない場合、一部の授業科目については、7/31(月)、8/1(火)、8/2(水)にも行う。

【A1ターム】

	1限(08:30~10:15)	2限(10:25~12:10)	3限(13:00~14:45)	4限(14:55~16:40)	5限(16:50~18:35)
月曜日				ミクロ経済学Ⅰ	松島 齊
火曜日	マクロ経済学Ⅰ	榎井 誠	会計	米山 正樹	
水曜日					
木曜日	経営	稲水 伸行	統計Ⅰ	久保川 達也	
金曜日					

授業期間（教養学部前期課程）：10月 3日（火）～11月21日（火）

※10月 9日（月・祝日）は、月曜日の授業を行う。

※11月24日（金）は、授業休止。

※11月21日（火）は、火曜日の授業は

※11月27日（月）は、午前のみ、授業休止。

行わずに金曜日の授業を行う。

※11月27日（月）は、午後のみ、補講日。

※11月22日（水）は、補講日。

《共通》試験期間：

2月5日（月）、2月6日（火）、2月7日（水）、2月8日（木）、2月9日（金）

# 当該試験期間内に対象となる全ての授業科目の試験の時間割を調整できない場合、一部の授業科目については、2/3(土),2/10(土)にも行う。

【A2ターム】

	1限(08:30~10:15)	2限(10:25~12:10)	3限(13:00~14:45)	4限(14:55~16:40)	5限(16:50~18:35)
月曜日				ミクロ経済学Ⅱ	松島 齊
火曜日	マクロ経済学Ⅱ	中嶋 智之			
水曜日					
木曜日			統計Ⅱ	久保川 達也	
金曜日	経済史Ⅰ	岡崎・城山	ファイナンス	佐藤 整尚	

授業期間（教養学部前期課程）：11月29日（水）～ 1月30日（火）

※12月28日（木）～ 1月 3日（水）は、授業休止（休業）。

※ 1月12日（金）は、授業休止。

※ 1月18日（木）は、補講日。

※ 1月17日（水）は、補講日。

※ 1月23日（火）は、補講日。

《共通》試験期間：

2月5日（月）、2月6日（火）、2月7日（水）、2月8日（木）、2月9日（金）

# 当該試験期間内に対象となる全ての授業科目の試験の時間割を調整できない場合、一部の授業科目については、2/3(土),2/10(土)にも行う。

令和5（2023）年度「専門科目1」時間割及び授業日程  
 <「令和3（2021）年度～令和5（2023）年度の経済学部進学者」を対象>

【S1ターム】

	1限(08:30～10:15)	2限(10:25～12:10)	3限(13:00～14:45)	4限(14:55～16:40)	5限(16:50～18:35)
月曜日		経済史Ⅱ 石原 俊時			
火曜日		ゲーム理論 高橋 悟			
水曜日					
木曜日		経済史Ⅱ 石原 俊時			
金曜日		ゲーム理論 高橋 悟			

授業期間（経済学部）： 4月 5日（水）～ 5月26日（金）

※ 4月12日（火）は、授業休止。

※ 5月12日（金）は、授業休止。

試験期間（経済学部）： 5月29日（月）、5月30日（火）、5月31日（水）、  
6月1日（木）、6月2日（金）

# 当該試験期間内に対象となる全ての授業科目の試験の時間割を調整できない場合、一部の授業科目については、6/3(土), 6/4(日)にも行う。



【A 1ターム】

	1限(08:30~10:15)	2限(10:25~12:10)	3限(13:00~14:45)	4限(14:55~16:40)	5限(16:50~18:35)
月曜日				ミクロ経済学Ⅰ	松島 齊
火曜日	マクロ経済学Ⅰ	榎井 誠	会計	米山 正樹	
水曜日					
木曜日	経営	稲水 伸行	統計Ⅰ	久保川 達也	
金曜日					

授業期間（教養学部前期課程）：10月 3日（火）～11月21日（火）

※10月 9日（月・祝日）は、月曜日の授業を行う。

※11月24日（金）は、授業休止。

※11月21日（火）は、火曜日の授業は

※11月27日（月）は、午前のみ、授業休止。

行わずに金曜日の授業を行う。

※11月27日（月）は、午後のみ、補講日。

※11月22日（水）は、補講日。

《共通》試験期間：

2月5日（月）、2月6日（火）、2月7日（水）、2月8日（木）、2月9日（金）

# 当該試験期間内に対象となる全ての授業科目の試験の時間割を調整できない場合、一部の授業科目については、2/3(土), 2/10(土)にも行う。

【A 2ターム】

	1限(08:30~10:15)	2限(10:25~12:10)	3限(13:00~14:45)	4限(14:55~16:40)	5限(16:50~18:35)
月曜日				ミクロ経済学Ⅱ	松島 齊
火曜日	マクロ経済学Ⅱ	中嶋 智之			
水曜日					
木曜日			統計Ⅱ	久保川 達也	
金曜日	経済史Ⅰ	岡崎・城山	ファイナンス	佐藤 整尚	

授業期間（教養学部前期課程）：11月29日（水）～ 1月30日（火）

※12月28日（木）～ 1月 3日（水）は、授業休止（休業）。

※ 1月12日（金）は、授業休止。

※ 1月18日（木）は、補講日。

※ 1月17日（水）は、補講日。

※ 1月23日（火）は、補講日。

《共通》試験期間：

2月5日（月）、2月6日（火）、2月7日（水）、2月8日（木）、2月9日（金）

# 当該試験期間内に対象となる全ての授業科目の試験の時間割を調整できない場合、一部の授業科目については、2/3(土), 2/10(土)にも行う。

## 令和5（2023）年度「専門科目1」時間割及び授業日程

<「令和6（2024）年度の経済学部進学内定者（教養学部前期課程2年生）」を対象>

### 【A1ターム】

	1限(08:30~10:15)	2限(10:25~12:10)	3限(13:00~14:45)	4限(14:55~16:40)	5限(16:50~18:35)
月曜日				ミクロ経済学Ⅰ	松島 齊
火曜日	マクロ経済学Ⅰ	楡井 誠	会計	米山 正樹	
水曜日					
木曜日	経営	稲水 伸行	統計Ⅰ	久保川 達也	
金曜日					

授業期間（教養学部前期課程）：10月 3日（火）～11月21日（火）

※10月 9日（月・祝日）は、月曜日の授業を行う。

※11月24日（金）は、授業休止。

※11月21日（火）は、火曜日の授業は

※11月27日（月）は、午前のみ、授業休止。

行わずに金曜日の授業を行う。

※11月27日（月）は、午後のみ、補講日。

※11月22日（水）は、補講日。

《共通》試験期間：

2月5日（月）、2月6日（火）、2月7日（水）、2月8日（木）、2月9日（金）

# 当該試験期間内に対象となる全ての授業科目の試験の時間割を調整できない場合、一部の授業科目については、2/3(土)、2/10(土)にも行う。

### 【A2ターム】

	1限(08:30~10:15)	2限(10:25~12:10)	3限(13:00~14:45)	4限(14:55~16:40)	5限(16:50~18:35)
月曜日				ミクロ経済学Ⅱ	松島 齊
火曜日	マクロ経済学Ⅱ	中嶋 智之			
水曜日					
木曜日			統計Ⅱ	久保川 達也	
金曜日	経済史Ⅰ	岡崎・城山	ファイナンス	佐藤 整尚	

授業期間（教養学部前期課程）：11月29日（水）～ 1月30日（火）

※12月28日（木）～ 1月 3日（水）は、授業休止（休業）。

※ 1月12日（金）は、授業休止。

※ 1月18日（木）は、補講日。

※ 1月17日（水）は、補講日。

※ 1月23日（火）は、補講日。

《共通》試験期間：

2月5日（月）、2月6日（火）、2月7日（水）、2月8日（木）、2月9日（金）

# 当該試験期間内に対象となる全ての授業科目の試験の時間割を調整できない場合、一部の授業科目については、2/3(土)、2/10(土)にも行う。

## II 演習・少人数講義参加者募集要項



## II 演習・少人数講義参加者募集要項

### 1. 演習・少人数講義の履修

経済学部では、各教員によって演習もしくは少人数講義のいずれかが開講されることになっています。演習・少人数講義の参加は許可制になり、年度当初の4月上旬に参加者募集があり、所定の期間内に所定の方法で参加申込を行い、指導教員から参加許可を受ける必要があります。

卒業単位として認められる単位数は、演習については、年度（S1・S2・A1・A2）開講となっており、同一年度に8単位（2演習）まで、在学期間内に16単位（同一演習は8単位）まで履修が認められています。少人数講義については、制限はありません。

全ての演習・少人数講義は、年度当初の4月上旬に参加者募集があり、このタイミングにおいて一括して参加申込を行う必要がありますが、A1・A2等に開講する少人数講義のうち年度当初に予定募集人数に達しなかった少人数講義については、追加募集を行うことがあります。参加申込方法及び時期等の詳細については、掲示により周知を行います。

なお、原則として、参加許可を受けた演習・少人数講義の取消及び変更は認められませんので、年間を通じた履修計画をたてた上で参加申込を行うようにしてください。

### 2. 演習・少人数講義の参加申込等

参加者募集、参加許可発表、第二次または第三次募集の有無等の関係する全ての告知、並びに参加申込書の提出については、ITC-LMSにより行います。詳細については、掲示により周知を行います。

－経済学部4年のうち、令和4（2022）年度に演習・少人数講義の参加許可を受け、履修登録が行われており、令和5（2023）年度も引き続き、同様の担当教員の演習・少人数講義の参加を希望する場合であっても、令和5（2023）年度の参加申込を行い、所定の期間内に所定の方法で参加申込を行い、担当教員から参加許可を受けなければ、履修することができません。

－所定の期間外の、または所定の方法によらない（直接、担当教員に提出書類を提出する等の）参加申込については、一切受理することができません。また、提出書類の記入に不備がある場合は、参加申込が無効となる場合があります。

### 3. 演習・少人数講義案内

#### —演習参加者募集要項—

時間割コード	担当教員	開講	
0704647	岡崎 哲二	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 48
0704649	神取 道宏	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 49
0704653	新宅 純二郎	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 50
0704654	福田 慎一	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 51
0704655	柳川 範之	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 52
0704656	粕谷 誠	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 52
0704657	大日方 隆	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 53
0704658	谷本 雅之	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 54
0704661	大森 裕浩	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 55
0704663	石原 俊時	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 56
0704664	澤田 康幸	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 57
0704673	青木 浩介	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 58
0704674	林 正義	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 58
0704675	桑嶋 健一	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 59
0704676	渡辺 努	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 60
0704679	米山 正樹	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 61
0704680	佐藤 整尚	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 62
0704683	大橋 弘	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 63
0704687	佐藤 泰裕	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 64
0704688	植田 健一	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 65
0704689	稲水 伸行	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 66
0704690	楡井 誠	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 67
0704691	中嶋 智之	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 67
0704692	山口 慎太郎	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 68
0704693	古澤 泰治	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 69
0704694	藤井 優成	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 70
0704695	野原 慎司	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 71
0704697	新谷 元嗣	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 71
0704698	星 岳雄	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・ 72

0704911	小島 庸平	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・	72
0704912	白谷 健一郎	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・	73
0704913	大木 清弘	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・	74
0704914	小川 光	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・	75
0704915	奥井 亮	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・	76
0704916	久保川 達也	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・	77
0704917	山本 浩司	S1S2A1A2	・ ・ ・ ・ ・	78

—少人数講義参加者募集要項—

時間割コード	担当教員	開講		
0704815	松島 齊 (I)	A1A2	・ ・ ・ ・ ・	82
0704816	松島 齊 (II)	A1A2	・ ・ ・ ・ ・	82
0704825T	阿部 誠 (I)	A1A2	・ ・ ・ ・ ・	83
0704827	松井 彰彦 (I)	S1S2	・ ・ ・ ・ ・	84
0704828	松井 彰彦 (II)	A1A2	・ ・ ・ ・ ・	84
0704853W	下津 克己 (I)	S1S2	・ ・ ・ ・ ・	85
0704854W	下津 克己 (II)	A1A2	・ ・ ・ ・ ・	86
0704862	尾山 大輔 (I)	S1S2	・ ・ ・ ・ ・	87
0704863	尾山 大輔 (II)	A1A2	・ ・ ・ ・ ・	87
0704864	北尾 早霧 (I)	S1S2	・ ・ ・ ・ ・	88
0704865	北尾 早霧 (II)	A1A2	・ ・ ・ ・ ・	88
0704869	市村 英彦 (I)	S2	・ ・ ・ ・ ・	89
0704871	Griffen Andrew Shields (I)	A1A2	・ ・ ・ ・ ・	90
0704875	Griffen Andrew Shields (II)	A1A2	・ ・ ・ ・ ・	91
0704876	小島 武仁 (I)	S1S2	・ ・ ・ ・ ・	92
0704877	小島 武仁 (II)	A1A2	・ ・ ・ ・ ・	93
0704880	高橋 悟 (I)	S1S2	・ ・ ・ ・ ・	94
0704881	高橋 悟 (II)	A1A2	・ ・ ・ ・ ・	96
0704882	首藤 昭信 (I)	S1S2	・ ・ ・ ・ ・	97
0704883	首藤 昭信 (II)	A1A2	・ ・ ・ ・ ・	98
0704884	入江 薫 (I)	S1S2	・ ・ ・ ・ ・	99
0704885	入江 薫 (II)	A1A2	・ ・ ・ ・ ・	99





## シラバス（演習）

- ※ 本冊子の内容は、「UTAS」のシラバスの一部抜粋である。詳細及び最新の内容は「UTAS」を参照すること。また、演習・少人数講義以外の科目のシラバスは、「UTAS」を参照すること。

時間割コード：0704647	担当教員：岡崎 哲二	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（岡崎）</p> <p>授業の目標、概要：イノベーションの発生のメカニズム、政策の役割、経済成長への含意を理解し、それをもとに日本におけるイノベーションの経験について考える。</p> <p>授業計画：S1、S2、A1 タームは、フィリップ・アギヨン他『創造的破壊の力：資本主義を改革する 22 世紀の国富論』（村井章子訳、東洋経済新報社）2022 年を輪読する。その後、日本におけるイノベーションの経験について、いくつかの企業のケースを取り上げて議論する。</p> <p>A2 タームは参加者がそれぞれ自由に設定した研究テーマについて発表し、それに基づいて年度末にゼミ論文を提出する。4 年生にはゼミ論文を卒業論文として提出することを推奨する。</p> <p>授業の方法：教科書と関連文献の輪読、および個人研究発表。</p>		
テキスト	<p>教科書：フィリップ・アギヨン他『創造的破壊の力：資本主義を改革する 22 世紀の国富論』（村井章子訳、東洋経済新報社）2022 年</p> <p>参考書：岡崎哲二『経済史から考える：発展と停滞の論理』日本経済新聞社、2017 年</p> <p>岡崎哲二編『経済史・経営史研究入門：基本文献、理論的枠組みと史料調査・データ分析の方法』有斐閣、2022 年</p> <p>市村英彦・岡崎哲二・佐藤泰裕・松井彰彦編『経済学を味わう』日本評論社、2020 年</p>	成績評価方法	授業への参加のしかた、およびゼミ論文による。
選考方法・履修上の注意	履修上の注意：ゼミは参加する学生と教員の協働によって成り立つ授業である。履修者には毎回出席することが強く期待される。		

時間割コード：0704649	担当教員：神取 道宏	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（神取）</p> <p>演習テーマ：理論経済学実習</p> <p>授業の目標、概要：ゲーム理論、情報の経済学、行動経済学と実験経済学、経済制度のデザインなど、経済理論の最新の成果を演習形式で身につけ、参加者とともに研究を行うことを目的とする。</p> <p>授業計画：テキストを中心に受動的に学習することよりも、現実問題への応用のプロジェクト、実験、理論的問題の討議などを第一の目的とし、必要に応じてテクニック・情報を適宜学習する。このようにして参加者自らが研究を行うことにより、理論的な思考、明確なプレゼンテーション、生産的な議論のしかた、現実問題への応用のセンスなどを培ってゆきたい。</p> <p>取り上げるトピックスは、</p> <p>①最新の研究成果に関連して、</p> <p>②かつ現実の社会経済問題を考えるのに役に立つようなものを選ぶことを伝統としている。ちなみに昨年度は経済制度の最適設計「マーケットデザイン」を取り上げ、次のような意欲的な取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オークションの最適設計問題は、売り出すものが1つの場合は解かれているが、複数のものを売る場合は40年以上も未解決のまま残っている有名な重要問題である。</li> <li>・この問題を、最新のAI技術（ディープラーニング）を駆使して解くことに挑戦</li> <li>・いくつかの場合について、今まで発見されていなかったデザインを見出した</li> <li>・京都大学のAI研究室とコラボを進めている</li> </ul> <p>本年の内容については、開講時に学生と相談の上決定する。</p> <p>授業の方法：ディスカッション、実験、調査など</p>		
テキスト	<p>教科書：開講時に指示する</p> <p>参考書：開講時に指示する</p>	成績評価方法	<p>出席（2回以上の欠席は理由の如何にかかわらず成績に影響します）、討論への貢献。2024年3月卒業予定者は、卒業論文を本演習で発表の上、学部所定の期限内に提出することを、単位取得の要件とする。</p>
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>申込書類：継続参加・新規参加者ともに、学部所定の演習参加書類を提出すること。</p> <p>新規参加希望者は、現在関心を持っている経済問題・経済学の分野と、大学に入ってから読んで感銘を受けた学術書（教科書・新書などを含む）2冊についての要約と感想・自己PRを3000字程度にまとめたものを提出すること。</p> <p>選考方法：面接の上、新規演習参加者を決定する。</p> <p>新規募集人員：8－10名程度</p> <p>2023年度以降の開講予定：有</p> <p>その他：専門科目1（駒場開講）のうち、「マイクロ経済学」「マクロ経済学」「統計」を履修していることが望ましい。</p>		

時間割コード：0704653	担当教員：新宅 純二郎	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（新宅）</p> <p>演習テーマ：経営戦略（国際経営・経営戦略）</p> <p>授業の目標、概要：本演習では、経営戦略について、理論的かつ実証的に勉強を進めていきます。経営戦略の中でも、とりわけ国際経営にかかわるテーマを取り上げます。演習の最終的なアウトプットは各自の論文です。論文作成作業を通じて、具体的事象から問題を発見・特定する能力、その問題を論理的・実証的に分析する能力、分析結果を説明する表現能力を身につけてもらうことを目標としています。</p> <p>授業計画：夏学期は基本文献（日本語、英語）の輪読を中心に、冬学期は先端的な研究論文を読んだり、ケース・ディスカッションや研究発表を中心に進行します。年度末に3年生はグループ研究論文、4年生は卒業論文の提出を義務とします。</p> <p>学習を継続的・効果的にするために、他の教員の演習もあわせて履修する学生（いわゆるダブルゼミ）、また大学院進学を目指す「卓越プログラム」を希望する学生の参加を歓迎します。</p> <p>授業の方法：輪読、発表とディスカッション。</p>		
テキスト	<p>教科書：開講時に指定。</p> <p>参考書：適宜指示する。</p>	成績評価方法	出席、発表、提出論文による。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●申込書類：新規申し込みは「研究したいテーマ」について 2,000 字程度にまとめたものを提出してください。継続の4年生は「卒業論文プロポーザル」を 4,000 字で提出のこと。</li> <li>●選考方法：申込書類と面接による。</li> <li>●新規募集人員： 10 名（3年生のみ）</li> <li>●担当教員の定年に伴い、2023 年度が最終の開講学期になる予定で、3年生は1年限りとなります。</li> </ul>		

時間割コード：0704654	担当教員：福田 慎一	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（福田）</p> <p>授業の目標、概要：日本経済を中心とした最近のマクロ経済学および金融・国際金融の諸問題を勉強する。本年度はとくに国際金融のフォーカスを当てて勉強する。</p> <p>授業計画：夏学期は、はじめに関連の基本文献を輪読して基礎知識をマスターすることに重点を置くが、ある程度基礎ができた段階で演習参加者をいくつかのグループに分け、選択したテーマごとに自主的に勉強を含めて報告の準備をしてもらい、その最終的な成果を夏合宿で報告してもらう。冬学期は、3年生は、一橋大学、慶応大学などとのインターゼミに向けてテーマを選択し、その関連の勉強を行う。4年生は、大阪大学、慶応大学などとのインターゼミに向けてテーマを選択し、その関連の勉強を行うと同時に、卒業論文の作成に向けて、独自にテーマ選択をして勉強を進めてもらう。</p> <p>授業の方法：基本文献の輪読およびゼミ生の報告による。時事問題に関する議論や、計量経済学の手法を使った日本経済の分析を適宜、行ってもらう。</p>		
テキスト	<p>教科書：参加者と相談して決定する。</p> <p>参考書：参加者と相談して決定する。</p>	成績評価方法	ゼミの出席および4年時のゼミ論の提出。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：参加希望の理由についてレポート（枚数自由）を提出する。レポートでは、「経済学について、これまでどのような勉強をしてきたか?」「経済学のどのような分野に関心があるか?」などをまとめて下さい。</p> <p>選考方法：申込書類および面接による。面接の日時は、以下を参照のこと。</p> <p>新規参加人員：10名</p> <p>その他：本年度は、外国人講師による英語のレクチャーを数回予定している。</p> <p>講師（予定） Professor Doowon Lee of Yonsei University. Professor Robert Owen of University of Nantes</p>		

時間割コード：0704655	担当教員：柳川 範之	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（柳川）</p> <p>演習テーマ：テーマ：起業に関する「ビジネスエコノミクス」と「金融」</p> <p>授業の目標、概要：この演習では、現実の諸問題を経済学的に分析する能力を身につけることを重点におきます。特に今年度については、起業をテーマに、現実の企業活動や金融取引、そしてそれを取り巻く法律等の制度的環境に焦点をあてて演習を行います。参加者には、経済学の発想や考え方に基づいて経済現象を考える能力を養って欲しいと思っています。そのためには、参加者が自分の頭で考えることが重要なので、熱意のある参加者を希望します。ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎知識はあるほうが望ましいですが、必須ではありません。</p> <p>授業計画：前半と後半で1冊ずつ関連した書籍を輪読する予定です。</p> <p>授業の方法：原則、輪読とディスカッションで行います</p>		
テキスト	<p>教科書：未定です</p> <p>参考書：未定です</p>	成績評価方法	平常点で評価する
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：特になし</p> <p>その他：</p> <p>申込書類：簡単な自己紹介と本郷で何を勉強したいかを、レポート用紙2，3枚程度にまとめて提出してください。意欲が読み取れるレポートを歓迎します。</p> <p>選考方法：上記書類と書類に関連した質疑を行う面接で決定します。</p> <p>新規参加人員：12名程度を予定しています。</p> <p>2024年度以降の開講予定：継続して開講の予定です。</p>		

時間割コード：0704656	担当教員：粕谷 誠	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（粕谷）</p> <p>授業の目標、概要：コーポレート・ガバナンスの観点からの経営史</p> <p>ESG という言葉があるとおり、Governance は Environment および Society とならぶ重要な要素と認識されている。本年度の演習では、経営史を学ぶ一環として、コーポレート・ガバナンスを学ぶこととし、その歴史について基本的なテキストを素材に考察する。</p> <p>授業計画：テキストを輪読していく。3,4年生ともに卒論に向けた研究発表を数回おこなう。</p> <p>授業の方法：演習形式</p>		
テキスト	<p>教科書：川本真哉『日本のコーポレート・ガバナンス史—データ分析で読み解く』中央経済社，2022。</p> <p>参考書：開講中に指示する。</p>	成績評価方法	演習への参加状況，発表，レポートなどを総合的に評価する。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>申込書類：志望者は志望動機を A4 で1～2枚程度に記して提出する。</p> <p>選考方法：申込書類による。必要ならばオンライン面接をおこなうので，UTAS や ITC-LMS の掲示やメールなどに注意すること。</p> <p>新規募集人員：3年生を6-8名程度新規に募集する。</p> <p>2024年度の開講予定：あり。</p>		

時間割コード：0704657	担当教員：大日方 隆	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（大日方）</p> <p>演習テーマ：会計学の考え方</p> <p>授業の目標、概要：会計基準の内容は講義科目で解説されるので、この演習では、学術的検討に焦点を当てる。ものごとの本質を理解するとはどのようなことか、存在意義や因果関係を問うとはどのような行為かを学習する。会計学の基礎概念について、哲学的な根本問題にまで立ち返って学習するとともに、高度な学知を体得することを目指す。</p> <p>授業計画：履修者と相談の上で採用テキストを決め、参加者が輪番でレジユメを作成し、報告する。</p> <p>授業の方法：疑問点、論争点、問題点について、学生が相互に討論するとともに、情報や知識が不足する場合は、教員が考える手がかりやヒントとなる解説を行う。</p>		
テキスト	<p>教科書：参加者と相談して決める。教科書や受験参考書ではない会計の専門書・研究書（日本語文献、英語分）を取り上げる予定である。</p> <p>参考書：その都度指定する。</p>	成績評価方法	ゼミへの参加の態度、報告内容とレジユメの質、ゼミ論（卒業時に提出）の完成度を総合的に判断する。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：駒場の基本科目(1)について、卒業に必要な単位数を取得済みであること。</p> <p>かつ、駒場の基本科目(1)の「会計」の単位を取得済みであり、優秀な成績をおさめていること。</p> <p>その他：</p> <p>申し込み書類：下記をワープロで入力、A4用紙に印刷のうえ提出すること。</p> <p>①自己紹介および自己分析（1,000字程度）</p> <p>②本ゼミの志望理由と将来の志望進路（1,000字程度）</p> <p>選考方法：書類審査および面接による。なお、駒場の基本科目の成績を重視する。</p> <p>新規参加人員：4～6名。</p> <p>2020年度以降の開講予定：開講する。</p>		

時間割コード：0704658	担当教員：谷本 雅之	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（谷本）</p> <p>演習テーマ：現代日本経済への歴史的アプローチ</p> <p>授業の目標、概要：共通テーマと参加者個々人の自主研究の二本立てで運営する。本年は、現代の日本経済に特徴的な事象について、歴史的視点を加味しつつ分析・考察した最近の文献を手がかりに、現代経済の課題を歴史的な視点から考察する方法を学ぶことを共通のテーマとする。</p> <p>授業計画：夏学期は、おもに共通テーマを巡って、テキストを輪読する。冬学期は、おもに参加者が自己の研究テーマを設定し、研究発表を行う。4年生は、自主研究をもとに卒業論文の執筆を目指し、3年生はゼミ論を提出する。</p> <p>授業の方法：演習形式による。</p>		
テキスト	<p>教科書：矢作敏行『コマースの興亡史』（日本経済新聞出版）、清水洋『野生化するイノベーション』（新潮社）等を考えているが、開講時に参加者とも相談の上、指示する。</p> <p>参考書：開講時に指示する。</p>	成績評価方法	平常点（演習への参加状況、発表の内容）およびゼミ論による。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：参加者は、出席と発表、および討論への参加が求められる。原則として欠席、遅刻は認められない。</p> <p>その他：</p> <p>選考方法：申込書類による。志望理由とこれまで読んだ経済学や歴史学、その他社会科学関係文献の簡単なリストを A4 用紙 1-2 枚にまとめたものを提出すること。</p> <p>新規参加人員：5～10 名。</p> <p>2024 年度も開講予定。</p>		



時間割コード：0704661	担当教員：大森 裕浩	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（大森）</p> <p>演習テーマ：ベイズ計量経済分析</p> <p>授業の目標、概要：経済予測の確率的な評価や、分析者の主観的な情報（将来に対する個人的な見通しなど）も必要に応じて組み込むベイズ統計学を用いた計量経済学の方法について学びます。経済データに限定することなく、様々なデータを対象とした最近の分析手法を広く取り上げます。R や python などのプログラミング言語による実習を行います。プログラミング言語に関する事前の知識は不要です。</p> <p>授業計画：</p> <p>「ベイズ分析の理論と応用: R 言語による経済データの分析」</p> <p>第2章 ベイズ分析</p> <p>第3章 マルコフ連鎖モンテカルロ法</p> <p>第4章 一変量データのベイズ分析</p> <p>第5章 線形回帰モデルのベイズ分析</p> <p>第6章 制限従属変数モデルのベイズ分析</p> <p>付録 C その他の MH アルゴリズムと比較</p> <p>「ベイズ深層学習」</p> <p>第2章 ニューラルネットワークの基礎</p> <p>第3章 ベイズ推論の基礎</p> <p>第4章 近似ベイズ推論</p> <p>第5章 ニューラルネットワークのベイズ推論</p> <p>授業の方法：3 年次ではベイズ統計学の基礎的な知識や機械学習について教科書および参考文献を演習形式で基本的には学習していきますが、3 年生の希望にも柔軟に対応します。4 年次では各自の卒業論文に関連する文献の発表を中心に行います。</p>		
テキスト	<p>教科書：</p> <p>各務和彦「ベイズ分析の理論と応用: R 言語による経済データの分析」新世社 2022 年</p> <p>須山 敦志「ベイズ深層学習」講談社 2019 年</p> <p>参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小西貞則・越智義道・大森裕浩『計算統計学の方法—ブートストラップ、EM アルゴリズム、MCMC』朝倉書店. 2008 年</li> <li>・大森裕浩・渡部敏明「ベイズ計量経済学へのいざない～入門から実践へ」経済セミナー 日本評論社 2018 年 第1回～第6回</li> <li>・古澄英男「ベイズ計算統計学」朝倉書店 2015 年</li> </ul>	成績評価方法	演習における発表による(100%)。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：募集要項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 申込書類：所定用紙の他に参加希望の理由を提出 (A4 用紙)</li> <li>2. 選考方法：申込書類による</li> <li>3. 新規募集人員：5～7 名</li> <li>4. 2022 年度以降の開講予定:有</li> </ol>		

時間割コード：0704663	担当教員：石原 俊時	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（石原）</p> <p>演習テーマ：福祉国家と福祉社会</p> <p>授業の目標、概要：現在、日本を含め殆どの先進諸国では社会保障システムの見直しが緊急の課題となっている。従来からの福祉ニーズに加え、人口の高齢化や家族形態の変化、グローバリゼーションなどを背景に新たなニーズが次々と出現しているのである。韓国など新興国では、これから社会保障システムを構築する際に新旧双方のニーズに対応するという課題を突きつけられていると言えよう。これらの課題に対応する福祉の担い手として、国家のみならず、地方自治体、企業、自発的団体、家族などの役割が期待されることとなったが、それぞれ問題を抱えているのが実情である。このような問題状況を時間軸（歴史的視点）・空間軸（国際比較）の中に位置づけて把握し、今後進むべき方向性を探ることが演習の課題となる。今年度は、社会的排除と社会（関係）資本をキーワードとして、現代社会の問題を歴史的・長期的なスパンの下に位置づけることを試みたい。</p> <p>授業計画：前期は文献の輪読を中心に行う。後期は卒論および個人研究の報告が中心となる。コロナ禍の前は、その他のゼミの活動として、福祉や自治体行政の現場の見学およびインタビュー、海外の学生との交流などに積極的に取り組んできた。コロナ禍の状況の様子をみつつ、そうした活動を徐々に再開したいと思う。</p> <p>授業の方法：テキストの輪読および個人研究（3年生は個人研究、4年生は卒論）の報告とそれをめぐる討論</p>		
テキスト	<p>教科書：前期に読むテキストについては、4月のゼミガイダンスまでに決めておく。</p> <p>参考書：演習の際に適宜指示する。</p>	成績評価方法	報告内容や議論への参加度を評価の対象とする。特に出席は重視される。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：特になし。</p> <p>その他：選考方法は、申込書類による。自己紹介および参加希望の理由について述べたレポート（書式・枚数自由）を提出してもらう。</p>		

時間割コード：0704664	担当教員：澤田 康幸	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（澤田）</p> <p>演習テーマ：「経済学と発展途上国 I」</p> <p>授業の目標、概要：発展途上国の経済を実証的・政策的・実践的に論ずる経済学の一分野、「開発経済学」を扱う。特に最近では、開発政策の効果を正確に計測するための無作為化比較試験（RCT）という手法を用いた政策評価が盛んとなっており、政策と研究が有機的に統合するという「開発経済学の革命」が起こっている。2019年のノーベル経済学賞は、この「開発経済学の革命」の立役者であるアビジット・バナネルジー教授、エスター・デュフロ教授、マイケル・クレマー教授に授与された。発展途上国の経済・社会を理解するうえで、標準的な経済学がどう役立つのかを学ぶ。</p> <p>授業計画：中心とする活動は三つある。</p> <p>途上国データ解析のための基礎・応用学習として、</p> <p>（1）計量経済学の基礎学習のため入門書を読む。西山・新谷・川口・奥井『計量経済学』（有斐閣、2019）を用いる予定である。</p> <p>（2）開発経済学への応用方法を学ぶ。教科書として、Banerjee, Ahijit and Esther Duflo (2019) Good Economics for Hard Times, Public Affairs (『絶望を希望に変える経済学』村井訳・日本経済新聞出版)を使い、Annual Review of Economics や Journal of Economic Perspectives に掲載された展望論文と最近の最近の学術論文をあわせて議論する予定である。</p> <p>（3）統計分析・数値解析の実践を学ぶ（Stata・Rを用いた計量経済学的分析の方法などを考えている）</p> <p>授業の方法：講義と輪読・討論の組み合わせ</p>		
テキスト	<p>教科書：西山・新谷・川口・奥井『計量経済学』（有斐閣、2019）</p> <p>Banerjee, Ahijit and Esther Duflo (2019) Good Economics for Hard Times, Public Affairs (『絶望を希望に変える経済学』村井訳・日本経済新聞出版)</p> <p>参考書：随時指定する</p>	成績評価方法	討論への参加、卒業論文ないしは学期末論文
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：通年の自主ゼミにも参加することが求められる。</p> <p>その他：</p> <p>新規参加人員：10名</p> <p>翌年度以降の開講予定：開講予定あり</p> <p>成績表に加え、以下のレポートを提出してください。成績表とレポート・面接を元に選考を行います。</p> <p>レポート：入ゼミの志望理由についてまとめてください（分量自由）</p> <p>面接：面接前に以下の動画を視聴してください。面接時に動画の内容や感想について質問します。</p> <p><a href="https://www.ted.com/talks/esther_duflo_social_experiments_to_fight_poverty/transcript?language=en">https://www.ted.com/talks/esther_duflo_social_experiments_to_fight_poverty/transcript?language=en</a></p> <p>書類提出者を対象に面接を行います。日程調整を行うため、提出された方は sawadasemi.recruit@gmail.com にメールをお願いします。</p>		

時間割コード：0704673	担当教員：青木 浩介	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（青木）</p> <p>演習テーマ：マクロ経済学 理論と実際</p> <p>授業の目標、概要：ゼミの目標は、自分でマクロ経済分析ができるようになることである。そのため、マクロ経済分析の枠組みと最新のマクロ理論を演習形式で身につける。また、それらを用いて各自の興味のある経済現象を分析し発表する。ディスカッションの仕方や発表の技法についても指導をする。</p> <p>授業計画：本年度の具体的なテーマは開講時に参加者と相談して決定する。</p> <p>授業の方法：演習形式</p>		
テキスト	<p>教科書：本年度の具体的な参考書は開講時に参加者と相談して決定する。</p> <p>参考書：本年度の具体的なテーマは開講時に参加者と相談して決定する。</p>	成績評価方法	ゼミ参加時の貢献
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：特になし</p> <p>その他：説明会で詳しく話しますが、募集は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 募集人数 10 名程度</li> <li>* 2 次募集は必ず行う</li> <li>* 学部所定の書類、成績表</li> <li>* 興味を持っている経済問題、今までに読んだ本や講義で印象に残ったこと、卒業後の目標などを 2000-3000 字程度にまとめたエッセイ</li> <li>* 面接（zoom もしくは対面による面接）</li> </ul>		

時間割コード：0704674	担当教員：林 正義	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（林）</p> <p>演習テーマ：財政制度の経済分析: 理論と実際</p> <p>授業の目標、概要：日本の財政制度や政府間関係（地方財政）について理解を深めると共に、財政の経済理論や実証分析について学習をすすめる。</p> <p>授業計画：S1S2 では指定された教科書（複数）を輪読し、時間がゆるせば計量経済学の基礎も学習する予定。A1A2 では関連する学術論文を輪読する予定。</p> <p>授業の方法：演習形式（レジュメ作成、それに基づいた発表、および、演習参加者全員による議論）</p>		
テキスト	<p>教科書：</p> <p>財政・公共経済学の標準的な教科書（後ほど決定）→現在、執筆している私の教科書の原稿を利用することも考えています(予定)</p> <p>浅野哲・中村二郎『計量経済学』有斐閣（第2版）</p> <p>参考書：随時指示します。</p>	成績評価方法	演習参加（発表提出物、発表の工夫、発表者への質問、議論への参加）、および、レポート（予定）
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：時間の厳守と出席、授業参加を重視します。</p> <p>その他：ゼミ中の発表は Zoom の共有機能を利用します。また、資料の共有なども zoom のチャット（資料添付）を利用します。したがって、演習中は常にノートパソコン等を利用することになりますので注意してください。利用する Zoom アドレスは参加者が確定する際に、LMS でお知らせします。</p>		

時間割コード：0704675	担当教員：桑嶋 健一	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（桑嶋）</p> <p>演習テーマ：経営戦略とイノベーション</p> <p>授業の目標、概要：この演習では、社会や企業で活躍する上で不可欠な論理的思考、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、文章執筆力、および経営学の基礎知識を身につけることを目標とする。扱うテーマは、経営戦略、経営組織、イノベーションマネジメント、技術経営、製品開発マネジメントなど。</p> <p>授業計画：</p> <p>前半：1. 基本文献の輪読、2. 卒論テーマ発表・中間発表、3. ゼミ論テーマ発表・中間発表、4. ゲスト発表、 後半：1. 専門書・学術論文の輪読、2. 卒論中間発表・最終発表、3. ゼミ論中間発表・最終発表、4. ゲスト発表</p> <p>授業の方法：グループ討議中心</p>		
テキスト	<p>教科書：ゼミ生と相談の上、決定する。</p> <p>参考書：随時紹介する。</p>	成績評価方法	平常点による。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>○選考方法：提出書類と面接による。参加希望者は以下の3点について、A4で2ページ程度にまとめて応募書類と一緒に事務に提出すること。</p> <p>(1) 自己紹介</p> <p>(2) 志望理由</p> <p>(3) その他（卒論・ゼミ論で取り組んでみたいテーマ、関心があることなど何でも可）</p> <p>○募集人数：7名程度（2年間の継続参加を原則とする）</p>		

時間割コード：0704676	担当教員：渡辺 努	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（渡辺努）</p> <p>演習テーマ：「物価と金融政策」</p> <p>授業の目標、概要：この演習の目的は物価と金融政策に関する基礎的な知見を身に着けることです。</p> <p>授業計画：この演習では、物価と金融政策に関するこれまでの知見（理論モデル、実証手法、実証結果）を討論形式で批判的に検討する作業を行います。その作業を通じて、日本経済や世界経済の動きを正確に理解し、自分の言葉で説明するスキルを身につけることを目指します。春学期はテキストや論文の輪読、ディベートなどを行います。秋学期は、3年生については3人程度のチームでゼミ論文を作成し報告をしてもらいます。4年生は卒論の執筆・報告を行います。</p> <p>授業の方法：テキスト・論文の輪読、ディベート、研究報告</p>		
テキスト	<p>教科書：適宜指定。</p> <p>参考書：適宜指定。</p>	成績評価方法	出席，研究報告，討議への貢献をもとに評価する。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：専門科目1（駒場開講科目）のうち「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「統計」を履修していることが望ましい。</p> <p>その他：学部所定の用紙を提出する。また、（1）ゼミへの参加を希望する理由、（2）ゼミでの研究テーマとして現時点で考えていることを記述したレポート（A4サイズ3枚以内）を提出する。</p>		

時間割コード：0704679	担当教員：米山 正樹	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（米山）</p> <p>演習テーマ：会計基準を支える基礎概念の分析</p> <p>授業の目標、概要：(a)企業の会計行動や(b)基準設定主体による会計基準の新設・改廃といった、会計現象の間にみられる因果関係の解明を目指す。そのための手段として、会計基準を支えている基礎概念に関する理解を深める。</p> <p>授業計画：多くの履修生が「唯一の正解」を引き出すような学習スタイルに慣れていると考えられることから、前提次第で回答が多岐に分かれうる問題を提供し、その解決を参加者全員で図る。議論の素材は指導教員が提供することもあれば、講読するテキストの中から見出すこともある。</p> <p>授業の方法：討論を通じて、参加者自身が主体的に問題の解決を図れるように指導する。担当教員は、基本的に、mentor としての役割を果たすことに終始する。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限方針に従い、適宜対面／ハイブリッド／オンライン形式を使い分ける。対面での演習に参加する場合は、感染防止のためのガイドラインを徹底して遵守する。</p>		
テキスト	<p>教科書：参加者と相談のうえ決定する。受験参考書などではなく、財務会計分野の専門書や研究書の中から適宜選定する。</p> <p>参考書：開講時に適宜指示する。</p>	成績評価方法	<p>演習への参加態度や報告内容を総合的に勘案する。4年生については卒業論文の提出状況と提出された論文の質も考慮する。</p>
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>〔演習募集に際して提出を求める書類〕</p> <p>(1) 自己紹介、(2)本演習の志望理由、(3)現在関心を持っている会計問題（可能であれば、その問題を解決するためにみずから行ってきた取り組みにも言及されたい）の3点を取りまとめたレポートを提出のこと。全体で2,000字をおおよその目安とするが、字数は応募者の裁量に委ねる。</p> <p>〔選考方法〕</p> <p>申込書類による。面接を行うかどうかは、開講時点の感染状況に応じて決定する（現時点では未定である）。なお駒場で開設されている基本科目の成績が芳しくない場合は、その原因に関するその原因に関する自己分析を求める。</p> <p>〔新規参加人員〕</p> <p>5名または6名を上限とするが、応募人数次第で弾力的に対応する。</p> <p>〔2024年度以降の開講予定〕開講する予定である。</p>		

時間割コード：0704680	担当教員：佐藤 整尚	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（佐藤整尚）</p> <p>演習テーマ：ファイナンスのためのプログラミング</p> <p>授業の目標、概要：ファイナンスの理論や実証の研究において必要な数値計算手法やプログラミング手法を習得することを目的とする。本や論文を読むだけでなく、Python 等を使って実際に動かせるプログラムを完成させることを目指す。また、チームに分かれて、共同開発の実際を体験する。</p> <p>授業計画：受講者と相談上決める。</p> <p>授業の方法：学生の発表を中心とする。</p>		
テキスト	<p>教科書：未定</p> <p>参考書：適宜指示する。</p>	成績評価方法	発表内容および成果物
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：プログラミングについては能力は問わないが、これからそれを学ぶ意欲が必要である。</p> <p>また、何らかの計算環境が必要である。</p> <p>なお、4 年生に対してはアクチュアリー志望での受講を認める。</p>		



時間割コード：0704683	担当教員：大橋 弘	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（大橋）</p> <p>演習テーマ：産業組織と経済政策</p> <p>授業の目標、概要：この演習では、「産業組織論」というミクロ経済学の応用分野を入り口として、足元で起きている経済・社会事象をより深く理解することを目的にしています。公益性の観点から政策的な議論も重点的に行います。経済を多角的に分析・理解するうえで、実証的な視点は欠かせません。単に既存の理論を当てはめるのではなく、仮説構築と検証を繰り返しながら、自らの頭で経済現象を理解し、更には社会問題の解決に向けて検討することができる能力を育てます。</p> <p>授業計画：前期は、輪読とともに、時事的なテーマを取り上げて、それに基づくディスカッションを行います。後期は、引き続き時事的なテーマについての討論を行うと共に、卒業論文やゼミ論に向けての進捗報告等を行います。</p> <p>授業の方法：報告とディスカッションが中心になります</p>		
テキスト	<p>教科書：参加者と相談して決定します。</p> <p>参考書：参加者と相談して決定します。</p>	成績評価方法	<p>出席・討論への貢献、3年時には少人数のグループでのゼミ論文の提出、4年時については卒業論文の提出となります。</p>
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：学部所定の書類を提出して下さい。また志望理由書として以下の3点についてまとめて提出して下さい。(1) 自己紹介 (500 字程度)、(2) 自分が興味を持っている経済的なトピックスについて (1000 字程度。但し、自身の考えも踏まえて記して下さい)、(3) これまで熱中してきたこと (500 字程度)</p> <p>留意点：志望理由書を経済学部指定の方式で提出するとともに、以下のフォームにも提出してください。</p> <p>経済学部への提出と、以下のフォームへの回答を持って応募を完了したものとみなします。</p> <p><a href="https://forms.gle/1KTbQ3x5arFP6ea1A">https://forms.gle/1KTbQ3x5arFP6ea1A</a></p> <p>選考方法：上記書類に基づく面接を行います。</p> <p>新規参加人員：15 名程度</p> <p>2023 年度も開講予定</p>		

時間割コード：0704687	担当教員：佐藤 泰裕	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（佐藤泰裕）</p> <p>演習テーマ：都市・地域経済学</p> <p>授業の目標、概要：経済学の応用分野としての都市経済学・地域経済学について学ぶことを目的とする。具体的には、人口移動・都市集積のメカニズム、都市構造の分析、企業立地、地方自治体の政策分析などを学習し、議論を行う。</p> <p>授業計画：今年度は、まず、都市・地域経済学の入門の教科書を輪読し、基礎的な知識について学ぶ。その後、理論分析の基礎的な手法、および、そこから実証分析につなげる手法を学び、それらを実際に使って分析を行う。より具体的には、土地などの価格から、近隣環境など目に見えないものの価値を測るのに使われるヘドニック・アプローチなどの理論的基礎、GIS（Geographic Information System）によるデータ可視化の基礎、Rを用いた回帰分析などを学び、それらを用いてグループ研究を行うことを予定している。</p> <p>授業の方法：文献の輪読およびその内容を利用した分析を行う。輪読に際しては複数名報告担当者を決め、輪読文献の内容報告や議論のための調査報告を分担してもらう予定である。分析に際してはグループで作業をしてもらう予定である。</p>		
テキスト	<p>教科書：</p> <p>都市・地域経済学の入門の教科書は例えば 佐藤泰裕（2014）「都市・地域経済学への招待状」有斐閣ストゥディア。などを、その後の教科書としては例えば 金本良嗣・藤原徹（2016）「都市経済学（第2版）」東洋経済。 谷謙二（2018）「フリーGIS ソフト MANDARA10 入門」古今書院。星野匡郎・田中久稔（2016）「R による実証分析 一回帰分析から因果分析へ」オーム社。などを用いる予定である。</p> <p>参考書：適宜指示する。</p>	成績評価方法	報告、平常点、および、レポートを総合的に評価する。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>ミクロ経済学およびマクロ経済学の基本的な知識は前提とする。これらの基礎科目の単位を修得しているか、そうでなければ当該演習と並行してそれらを履修することを推奨する。</p> <p>申込書類：志望者は志望動機を A4 で 1 枚にまとめて提出すること。</p> <p>選考方法：申込書類と面接。</p> <p>新規募集人員：10 名程度。</p> <p>2024 年度も開講予定である。</p>		

時間割コード：0704688	担当教員：植田 健一	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（植田）</p> <p>演習テーマ：マクロ経済と金融: 理論と実務</p> <p>授業の目標、概要：マクロ経済と金融システム、国際金融に関する様々な理論や実証研究を学習するとともに、それらを基に現実の問題を考察し議論する能力を養うことを目指す。</p> <p>授業計画：参加者と相談の上決定する。</p> <p>授業の方法：教科書の輪読とそれに基づいた議論と、小グループでのゼミ論の発表とそれに基づいた議論をします。</p>		
テキスト	<p>教科書：参加者と相談して決定する。ただし英語の本となる。</p> <p>参考書：同上</p>	成績評価方法	ゼミへの貢献度で判断。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：参加希望者は、金融、国際経済またはマクロ経済について興味を持った問題について、自分なりに分析した結果を短い文章にまとめ、自己紹介とともに提出のこと。</p> <p>(募集人員、1次募集10名程度、2次募集はかなり例外)</p> <p>その他：欠席は事前に理由とともに知らせること。積極的に議論に参加すること。</p>		

時間割コード：0704689	担当教員：稲水 伸行	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（稲水）</p> <p>授業の目標、概要：本演習では、経営学・組織行動論に関する文献の輪読及び事例を交えたディスカッションを通じて、基本的な知識の習得及び実践のための視点を養うことを目的とする。その上で、学術的にも実務的にも評価されうるような卒業論文の作成を目標とする。</p> <p>授業計画：S セメスターでは、経営学・組織行動論に関するテキスト（例えば海外 MBA で標準的に使われているもの）を輪読する。A セメスターでは、経営学・組織行動論に関する学術論文や書籍を輪読する。合わせて、各回に関連するトピックを扱ったケース等を取り上げ、グループ・ディスカッションを行い、理解を深める。そのほか、適宜、卒業論文の研究テーマについて進捗報告を行ってもらう。</p> <p>授業の方法：</p> <p>各回の前半：報告担当者/グループには、指定文献について A4 で 5 枚程度のレジュメを作成し内容を報告してもらう（30 分程度）。報告担当でない人も事前に指定文献を読み、質問・コメントを準備して出席すること。それらをもとにディスカッションを行い、経営学・組織行動論に関する理解を深めてもらう。</p> <p>各回の後半：指定されたケースについてグループに分かれてディスカッションを行う（30 分程度、講義中にはケース等の教材を読む時間を取らないため、事前に読み込んで来ること）。その後、各グループでの討議内容を報告してもらい、全体でまとめの議論を行う（20 分程度）。</p> <p>また、場合によっては、卒業論文の進捗等をプレゼンテーションしてもらい、それをもとにディスカッションを行う。</p>		
テキスト	<p>教科書：詳細は開講時に指示するが、現段階では下記を予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Daft, R. L. (2015). Organization theory &amp; design (12th ed ed.). Boston, Mass.: Cengage Learning. エッセンシャルズ版の訳, R.L.ダフト(2002)『組織の経営学』高木晴夫訳. ダイヤモンド社.</li> <li>・ Robbins, S. P., Judge, T. (2016). Organizational behavior (17th ed., global ed ed.). Boston: Pearson. エッセンシャルズ版の訳, S.P.ロビンズ(2009)『組織行動のマネジメント:入門から実践へ』高木晴夫訳. ダイヤモンド社.</li> </ul> <p>参考書：講義中に適宜指定する。</p>	成績評価方法	出席及びゼミでのディスカッションの参加状況によって評価する。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 申込書類：下記①～③についてまとめ、氏名、連絡先(e-mail)とともに inamizu&lt;at&gt;e.u-tokyo.ac.jp まで送信すること。</li> <li>①「組織の中で困難を乗り越えて課題を克服した経験と、その中で自分がどのような働きをしたのかについて、1500～2000 字で記述してください。」</li> <li>②「駒場の経営の授業で興味を持った内容について実体験と紐付けながら 500～1000 字で記述してください。」</li> <li>③「あなたが稲水ゼミに入った後にやりたいことを 500 字程度で記述してください。」</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考方法：上記書類に基づいた面接により選考する。</li> <li>・ 新規募集人員：10 名程度</li> <li>・ 2023 年度以降の開講予定の有無：有</li> </ul>		

時間割コード：0704690	担当教員：楡井 誠	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（楡井）</p> <p>授業の目標、概要：マクロ経済現象と政策について自ら問いを立て、既存研究に基づいて立論し、討論により意見を交換することを通じて、国際的な知識還元に参加する力を養う。</p> <p>授業計画：日本経済の成長と分配に関して、ゼミ生の問題関心に応じていくつかのトピックを選定し、先行研究を読んでいく。トピックごとの導入として、オープンソースの教科書“The Economy”を用いる予定である。</p> <p>授業の方法：ゼミ参加者による輪読、報告発表、レポート作成。</p>		
テキスト	<p>教科書：Core-Econ, “The Economy”</p> <p><a href="https://www.core-econ.org">https://www.core-econ.org</a></p> <p>参考書：難易度の目安として、二神・堀『マクロ経済学』を挙げる。</p>	成績評価方法	報告と平常点
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：応募にあたって、簡単な自己紹介と、大学での学びの中から興味を持って考えたことについて、1200字程度のエッセイを提出すること。24年度は教員サバティカルのため不開講の予定。希望者には翌年度のゼミを紹介する。</p>		

時間割コード：0704691	担当教員：中嶋 智之	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（中嶋）</p> <p>演習テーマ：マクロ経済学</p> <p>授業の目標、概要：マクロ経済学の基礎理論とその応用を学習する。</p> <p>授業計画：マクロ経済学や金融に関する教科書や論文の輪読を行う。</p> <p>授業の方法：輪読</p>		
テキスト	<p>教科書：2022 年度は Daron Acemoglu, Introduction to modern economic growth.</p> <p>参考書：適宜指示します</p>	成績評価方法	出席、発表、議論への参加
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：応募に際しては、自己紹介と経済（学）に関して興味があるテーマを、A4 用紙 1 枚程度にまとめて、提出してください。</p>		

時間割コード：0704692	担当教員：山口 慎太郎	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（山口）</p> <p>演習テーマ：実証マイクロ経済学演習</p> <p>授業の目標、概要：実証マイクロ経済学、データ分析の手法を学び、実社会のデータに応用することで社会問題の理解と解決を目指します。主な応用分野は、教育政策、子ども・子育て支援政策、労働市場政策、企業における人事制度ですが、その他幅広く公共政策の評価、労働市場分析なども扱います。</p> <p>マイクロ経済学、計量経済学の知識を学ぶだけでなく、それらを自身の問題関心に合わせて活用できるようになることが目標です。また、自身の考えを効果的に伝えるためのプレゼンテーション技術、レポート・論文執筆能力を身につけることも目指します。</p> <p>授業計画：ゼミでは各人の関心に応じて、主に2種類の課題に取り組みます。</p> <p>ひとつは学術論文の紹介とディスカッションです。ある特定のテーマに沿って論文を数本選び、その内容について紹介します。経済学研究が何をどこまで明らかにしたのか理解し、その知見を日本社会における問題解決に応用することを目指します。過去には、「AI が労働市場に及ぼす影響」や「政策やメディアが出生行動に及ぼす影響」、「教育政策とその効果の国際比較」などを採りあげました。</p> <p>もうひとつは実証分析、データ分析です。自分たちでテーマを設定し、実社会のデータを用いて記述的分析や政策評価を行います。昨年は、「幼児教育の効果」、「文理選択の男女差」、「東京オリンピックの労働市場への影響評価」、「プロスポーツに見られる生まれ月の影響」、「介護・延命治療の効果測定」、「GoTo トラベルの政策評価」、「自然災害リスクが地価に及ぼす影響」など様々な問題に取り組みました。</p> <p>授業の方法：毎回のゼミでは2つのグループが発表を行います。発表に対しては、他のゼミ員や教員から質問・コメントを貰い、それに対して回答し議論を行うことで、問題への理解を深めることを目指します。グループは3-4人で構成され、3年生も4年生も交えたものとなるのが通常です。準備などを通じて、学年を超えた交流ができます。このグループは課題ごとに組み替えて構いません。</p>		
テキスト	<p>教科書：西山・新谷・川口・奥井、『計量経済学』、有斐閣、2019</p> <p>参考書：伊藤公一朗、『データ分析の力』、光文社新書、2017</p> <p>川口大司、『労働経済学』、有斐閣、2017</p> <p>山口慎太郎、『「家族の幸せ」の経済学』、光文社新書、2019</p> <p>山口慎太郎、『子育て支援の経済学』、日本評論社、2021</p>	成績評価方法	出席、討論への貢献、発表、レポート、論文
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>&lt;申込書類&gt;</p> <p>学部指定のものに加え、エッセイを提出してもらいます。書式は自由ですが、分量は2-3 ページが適当です。以下の内容を含めてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●氏名（読みもひらがなで）</li> <li>●所属学部、学年</li> <li>●連絡用メールアドレス</li> <li>●簡単な自己紹介</li> <li>●いま興味を持っている社会・経済現象</li> <li>●将来のキャリアプラン</li> <li>●本演習参加希望の理由</li> <li>●その他、担当教員に伝えたいこと、アピールしたいこと（自由に追加して良い）</li> </ul> <p>&lt;選考方法&gt;</p> <p>原則、書類のみで選考を行います。エッセイの内容を重視しているので力を入れて書いてください。必要と判断</p>		

<p>した場合には面接を行うことがあります。</p> <p>&lt;募集人数&gt;全体で 20 名程度。</p> <p>&lt;来年度以降の開講予定&gt;あり。</p> <p>&lt;卒論について&gt;卒論執筆は任意とします。必修ではありません。</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <p>他学部の学生の参加も歓迎します。他学部から参加希望する場合は、事前に担当教員に連絡を取ってください。</p> <p>その他：サブゼミへの参加を推奨します。ゼミの時間は限られているため、必要な計量経済学とプログラミングの知識を獲得するために、ぜひ参加してください。具体的な運営方法は参加者に決めてもらいますが、ゼミの担当教員が適宜学習上のアドバイスを行います。</p>
--

時間割コード：0704693	担当教員：古澤 泰治	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（古澤）</p> <p>演習テーマ：International Economics</p> <p>授業の目標、概要：Through this seminar, students are expected to master core theories of international trade and finance, learn how to test the theories with data, and apply such theories and empirical findings to real economic issues. Students are also expected to learn presentation skills in English.</p> <p>授業計画：Students will read and present chapters of the textbook while occasionally presenting papers of their interest published in academic journals.</p> <p>授業の方法：Students will present chapters and papers, and discuss covered materials and related issues in reality. Students will also engage in group research and present it in inter-university workshops.</p>		
テキスト	<p>教科書：</p> <p>Krugman, Paul R., Maurice Obstfeld, and Marc J. Melitz, International Economics: Theory and Policy, Pearson.</p> <p>参考書：古沢泰治著『国際経済学入門』新世社</p>	成績評価方法	Grades are based on the performances in the classes. Active performances are expected.
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>Please submit a statement of purpose (1 or 2 pages) written in English, together with the transcript. Selection will be based on those and the performance in the interview.</p> <p>A maximum of 10 students will be selected.</p> <p>Senior (4th year) students are required to submit a senior thesis.</p>		

時間割コード：0704694	担当教員：藤井 優成	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（藤井）</p> <p>授業の目標、概要：動的複製と無裁定に基づく派生商品の価格評価理論を中心として、金融工学的手法の基礎を習得することを初年度の目標とします。金融工学的手法は、金融市場でリスクをやり取りする際の必須技術であると同時に、社会現象の数理モデリングとそれに不可欠な確率論等の数学ツールを学ぶ為の練習場になります。当面的間は内容の多くが「デリバティブ」の講義と重なるので、トピックの詳細はそちらのシラバスも参照してください。理解度や継続履修の可否にもよりますが、確率微分方程式や伊藤の公式の扱いに十分に習熟すれば、翌年(2024年)以降、通常の価格評価理論を越えて確率最適制御 (Stochastic Optimal Control) や、確率微分ゲーム (Stochastic Differential Game) の学習へと繋げていきたいと考えています。この場合は、後退確率微分方程式の基本性質を学んだ上で、その解と（最適解、均衡解）の対応を理解していくことになります。間違いなく時間が足りないので、大学院進学の可能性も視野に入れて勉強してくれる学生を待っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●確率最適制御は、確率的 (Stochastic) な環境下での効用関数あるいは損失関数の最適化問題を扱います。最適ポートフォリオや最適生産・消費問題などが有名です。「デリバティブ」で使用する金融工学は、実は様々な仮定のお陰で制御理論が不要になっていますが、少し問題を一般化すると制御理論が必要になります。</li> <li>●確率微分ゲームは、複数のエージェントが最適制御をしながら影響を及ぼしあっている状況下で、そのつり合い (均衡) の存在やその性質を調べるものです。特に、確率的な不確定性がある中での連続時間のゲームを確率微分ゲームと呼びます。この問題の多人数極限を扱うものは「平均場ゲーム」と呼ばれ盛んに研究されています。</li> </ul> <p>授業計画：最初は動的複製と無裁定価格評価理論を中心とした、金融工学の基礎的内容とそれに必要な数学ツールの習熟を目標とします。後期や翌年度以降に、参加者の理解度に応じて発展的な内容に移行したいと思います。価格評価理論に関しては、その内容の多くが、講義「デリバティブ」とそれに対応する演習科目「上級デリバティブ演習 I」と重なります。理解を深める為にも同時履修を推奨します。なお、「デリバティブ」や「上級デリバティブ演習 I」に関連した質問が出てきた場合は、適宜時間をとって解説します。</p> <p>授業の方法：教科書を輪読し、担当者に黒板/ホワイトボードを使って解説してもらいます。発表者以外は積極的に質疑に参加。駒場の教養程度の数学 (特に基礎的な微積分) を使いこなせていない人 (単位を取得したかどうかとは無関係に) は、演習書などを使って自習しておいてください。</p> <p>この演習に限った話ではないですが、使える知識や道具を手に入れられるかどうかは、個々人の学習量とその強度に大きく依存します。“もの”にしたい方には十分な独習が必要になります。</p>		
テキスト	<p>教科書：最初は、Arbitrage Theory in Continuous Time; Oxford Finance を教科書として主要部分を読み進めることを考えています。</p> <p>参考書：ごく初歩的な金融工学の入門書には、Stochastic Calculus for Finance I, II (Shreve) などがあります。並行して学習してみるとより理解が進むでしょう。より発展した内容のものや、数学の教科書に関しては適宜紹介します。</p>	成績評価方法	発表の準備・予習・復習、議論への積極的参加。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：選考は書類選考のみ。</p> <p>申し込み書類：学部所定の申込書類に加え、以下を提出。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 駒場及び学部の成績表。</li> <li>(2) 簡単な自己紹介、ゼミへの意気込みについて (A4) 1 枚程度にまとめて提出。</li> <li>(3) 募集人数：少人数。</li> </ol> <p>来年度以降も開講予定。</p> <p>その他：卒業論文は要求しません。</p>		



時間割コード：0704695	担当教員：野原 慎司	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（野原）</p> <p>演習テーマ：経済学史</p> <p>授業の目標、概要：経済学の歴史を振り返ることで、経済の本質に迫ることが目標である。具体的には、経済学の古典を読むことで、単なる教科書的理解を超えて、経済がどのような問題意識や課題や時代背景で認識されていたのかを知ることが目標である。そうすることにより、経済の本質の大枠での理解、資本主義の大枠での理解を得られる。</p> <p>授業計画：1、ガイダンス、2、イントロダクション、3-13 テキスト読解</p> <p>授業の方法：演習形式。毎回テキストを輪読する。</p>		
テキスト	<p>教科書：経済学・社会思想の古典のなかから、相談してテキストを決定する。</p> <p>参考書：経済学史の全般的知識を得たければ、野原・沖・高見『経済学史』、日本評論社、2018 年を参照せよ。</p>	成績評価方法	授業参加およびレポート
選考方法・履修上の注意	履修上の注意：特に前提となる知識は要求しないが、積極的な討議への参加を期待する。		

時間割コード：0704697	担当教員：新谷 元嗣	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（新谷）</p> <p>演習テーマ：マクロ経済予測と機械学習</p> <p>授業の目標、概要：マクロ経済データの予測を様々な手法で実践し、結果を経済学的に解釈する能力を習得する。</p> <p>授業計画：本演習では、GDP、物価、株価、為替レート等の時系列経済変数の動きを予測するためのデータ処理と分析手法を学ぶ。特に機械学習的な手法を実践するためにプログラミング言語 Python の使用を予定している。</p> <p>授業の方法：講義・輪読・討論</p>		
テキスト	<p>教科書：新谷元嗣・前橋昂平「Python によるマクロ経済予測入門」朝倉書店 2022 年</p> <p>参考書：西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮「計量経済学」有斐閣 2019 年</p>	成績評価方法	報告・討論・学期末のレポート
選考方法・履修上の注意	履修上の注意：基本的に毎回の出席は必須。やむを得ない事情で欠席する場合は事前に許可をとること。また専門科目 1（駒場開講科目）のうち「マクロ経済学」「統計」を履修していることが望ましい。		

時間割コード：0704698	担当教員：星 岳雄	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（星）</p> <p>演習テーマ：日本経済と日本の経済政策</p> <p>授業の目標、概要：日本経済、経済政策に関するいくつかの研究テーマを設定し、共同研究を行う。</p> <p>授業計画：いくつかの研究テーマについての研究グループを作り、研究に取り組む。1 学期につき、各グループ一つの研究プロジェクトを完了したい。関連の専門家を招いて、随時講演してもらう。</p> <p>授業の方法：ゼミ生のグループ・プロジェクトの計画発表、中間発表、最終発表を中心に、ゲスト・スピーカーの講演も交える。</p>		
テキスト	<p>教科書：随時指定する</p> <p>参考書：随時指定する</p>	成績評価方法	研究プロジェクトのレポート、ゼミへの積極的参加などによる。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>選考方法：簡単な自己紹介と現在関心を持っている経済問題について書いたもの（A1 一枚ていど）を提出すること。そのうえ、面接によって選考する。</p> <p>履修上の注意：実際の研究はゼミの時間以外に行うことになるので、研究のために十分な時間がとれることが必要。また、研究は 3, 4 人のグループ単位で行うので、グループ・メンバーとの協調が必要になる。ゼミの時間帯は、自分のグループの研究だけではなく、他のグループの研究にコメント・助言するなど、積極的に参加すること。</p>		

時間割コード：0704911	担当教員：小島 庸平	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（小島庸平）</p> <p>演習テーマ：娯楽産業の経済史</p> <p>授業の目標、概要：人々の「この世の楽しみ」を求める欲求は、経済の重要な駆動力の一つである。近代の日本では、様々な娯楽が「産業」として本格的に拡大・定着した。このゼミでは、メディアや観光といった娯楽に関わる経済史の文献の輪読と、卒業論文の執筆に向けた個人研究報告を行う。</p> <p>授業計画：テキストの輪読と参加者の個人研究報告を交互に行う。詳細は履修者数を見て判断する。</p> <p>全員が卒業論文を執筆するのが望ましい。</p> <p>授業の方法：ゼミ形式による。</p>		
テキスト	<p>教科書：参加者と相談の上、決定する。</p> <p>参考書：演習中に適宜指示する。</p>	成績評価方法	演習への参加状況による。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：演習中、必ず一度は発言すること。</p> <p>その他：4 年次からの参加も妨げない。履修を希望する者は、これまでに読んだ経済学・経済史・歴史学に関わる書籍の中で特に印象的だったものを 1-3 冊選び、その魅力を紹介するレポート（3,000-4,000 字）をメールで提出すること。</p>		

時間割コード：0704912	担当教員：白谷 健一郎	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（白谷）</p> <p>演習テーマ：金融商品の価格とリスクの推定</p> <p>授業の目標、概要：さまざまな金融商品の価格やリスクを推定できるようになることを目標とする</p> <p>授業計画：Implementing Models in Quantitative Finance - Methods and Cases という本を輪読し、プログラムを作成する。</p> <p>授業の方法：受講者による発表</p>		
テキスト	<p>教科書：Fusai, Gianluca, and Andrea Roncoroni. Implementing models in quantitative finance: methods and cases. Springer Science &amp; Business Media, 2007.</p> <p>(大学の Wifi 経由でダウンロード可能)</p> <p>参考書：適宜紹介する</p>	成績評価方法	発表
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：S1S2 に開講されるデリバティブ（藤井優成先生）の授業を履修すること。</p> <p>また、大学院向けの授業ではあるが、A1A2 に開講されるファイナンスのための確率 II の聴講を推奨する。</p>		

時間割コード：0704913	担当教員：大木 清弘	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（大木）</p> <p>演習テーマ：国際経営を中心とした経営学研究</p> <p>授業の目標、概要：本ゼミナールでは、経営学の視点から現実を観察し、分析する能力を身に付けることを目指す。そのために、三年時は数人のグループに分かれた研究活動を行う。研究活動を通じて、既存研究および方法論を学んでいく。具体的には、各自が設定した研究テーマの最新の学術研究、現実の企業の状況、および定性・定量分析の手法を、実践の中で学んでいく。また、研究成果は論文文化して外部で発表する予定のため、論文のライティングスキル、およびプレゼンテーションスキルも身に付けていく。さらに、グループワークが中心になるため、プロジェクト経験からの学びも得ていく。</p> <p>四年時は、三年時の経験を踏まえて、自らの興味に合わせて、各々が自律して研究活動を行っていく。一人で研究を進めていく中で、自らの成長のために自律的に行動する姿勢を身に付けてもらう。</p> <p>本教員はいずれの年次の学生に対しても、メンターとして研究の支援を行う。必要な既存研究の紹介、方法論の紹介、研究内容のアドバイス、現実の企業の実態の説明など、学生の学びに必要なものを可能な限り補うという立場で、学生を支援する。</p> <p>なお、研究テーマは、教員の研究テーマである国際経営に関連するものが多くなることを予想しているが、必ずしも国際経営にとらわれる必要はない。特に四年時は、自分で主体的にテーマを選び、自らの責任で研究活動をしてもらうことを期待する。</p> <p>また、上記の研究活動以外に、現実の企業の実態を理解することを重視する。そのため、企業訪問をしたり、ゲストスピーカーを呼んだりして、交流する機会を多数もうける予定である。そうした交流から、現実・現場から学ぶ姿勢を身に付けてくれることを期待する。</p> <p>授業計画：</p> <p><b>【S1S2】</b> 第1回 ガイダンス（自己紹介、グループ分け）</p> <p>第2-3回 テーマ決め</p> <p>第4-5回 既存研究調査</p> <p>第6-7回 問題意識の決定</p> <p>第8-10回 調査設計</p> <p>第11-12回 プロポーザル準備</p> <p>第13回 研究プロポーザル</p> <p><b>【A1A2】</b> 第1回 夏休み活動報告</p> <p>第2-4回 研究活動</p> <p>第5-7回 論文執筆</p> <p>第8-9回 プレゼン練習</p> <p>第10回 フィードバック</p> <p>第11-13回 社会人との交流</p> <p>※12月上旬に、下記の学外の研究発表大会（土日）に出場する。そのための研究活動である。</p> <p><a href="http://ibintercollege.org/">http://ibintercollege.org/</a></p> <p>授業の方法：ゼミの時間は学生からの報告と教員を交えた話し合いの時間である。学生と対話しながら、何をすべきかについて議論する。</p>		

テキスト	教科書：別途指定（研究テーマによる） 参考書：別途指定（研究テーマによる）	成績評価方法	授業への出席、授業での発言、プロジェクトでの貢献から評価する。
選考方法・履修上の注意	履修上の注意： <ul style="list-style-type: none"> <li>・選考の情報については学生が立ち上げている Twitter など公開します。  <a href="https://mobile.twitter.com/utokyo_okizemi">https://mobile.twitter.com/utokyo_okizemi</a></li> <li>・いわゆる輪読をするタイプのゼミではなく、プロジェクトを行っていくタイプのゼミです。そのため、授業時間以外でも、メンバー同士で話し合いの時間を取らなければならないことが多々あると思います。経営学に興味がある人で、大学卒業までに学術研究っぽいことを一度はやりたい人を歓迎します。また、積極的に研究がしたいわけではないけれども、他にやることなく、残りの二年間でなんか集中してやってみたいという人も大歓迎です。</li> <li>・英語で論文を読んだり、英語で論文を書いたり、英語でプレゼンテーションしたりします。英語力としては大学入試レベルで全く問題ありません。レベル感については、ガイダンスなどで説明します。苦手意識のある人でも問題ないです。</li> <li>・企業人との交流、他大学の学生との交流、OB との交流など、可能な限り様々な機会をもうけます。そういう機会を前向きに捉え、楽しんでもらえる人を歓迎します。</li> </ul>		

時間割コード：0704914	担当教員：小川 光	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テーマ	講義題目：演習（小川） 授業の目標、概要：ミクロ経済学的な考え方にもとづき、統計的・計量経済学的手法を用いて、日本の財政制度・社会保障制度の効果の分析や政策評価、あるいは政策形成過程などについて分析します。その準備として計量経済学の基礎理論を復習したうえで、分析結果を論文としてまとめます。 授業計画：春学期は、計量経済学等のテキストを用いて演習問題に取り組むなどして、統計的な実証分析を行うための基礎知識を身につけます。その後、これらの基礎をふまえ、基本的な制度を学びつつ、実証研究に取り組みます。 授業の方法：テキストや論文を読むとともに、実証研究に取り組み、その中間報告を相互に発表しあうことで、質の向上を図ります。		
テキスト	教科書：田中隆一．2015．計量経済学の第一歩．有斐閣ストゥディア．ISBN: 978-4-641-15028-7 参考書：必要に応じて指示・配布します。	成績評価方法	平常点（出席状況・授業態度）および発表・論文の内容によって評価します。
選考方法・履修上の注意	履修上の注意： <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 選考方法：2022 年度に演習（別所）を履修した 4 年生のために開講します。必要に応じて面接を行います。</li> <li>2) 申込書類：予定する研究テーマと研究概要をまとめたもの（A4 で 1 枚程度）</li> <li>3) 募集人員：最大 12 名</li> <li>4) 来年度以降の開講予定の有無：来年度以降の開講予定なし</li> </ol>		

時間割コード：0704915	担当教員：奥井 亮	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（奥井）</p> <p>授業の目標、概要：経済学における実験データの計量経済学的分析法を学習する。計量経済学の手法を用いて、経済学のフィールドや実験室での実験から得られたデータをどのように分析することができるかを学習する。また統計ソフトの操作を習得する。さらに実験の背景にあるマイクロ経済学についての理解を深める。</p> <p>授業計画：本演習では、経済学実験から得られたデータの分析法を学ぶ。データは既存の実験のものを利用する予定である。輪読と講義により、分析に使用される計量経済学の手法の背景にある理論を学ぶ。データ分析のための統計ソフトの扱いに習熟するために、計算機演習を行う。使用する統計ソフトは参加者と相談して決める。また、輪読において実験の背景にあるマイクロ経済学の理論を学習する。ただし、マイクロ経済学の学習は、演習での分析対象となる実験に直接関連するものだけになる予定である。また、演習で扱う実験への理解を深めるのに有用であると参加者が判断するならば、模擬実験を行う可能性もある。ただし、本格的な実験を行う予定はない。</p> <p>授業の方法：講義、輪読、コンピュータ演習、討論</p>		
テキスト	<p>教科書：経済学のための実験統計学</p> <p>Peter G. Moffatt (原著), 川越 敏司 (翻訳), 會田 剛史 (翻訳), 小川 一仁 (翻訳), 佐々木 俊一郎 (翻訳), 長江 亮 (翻訳), 山根 承子 (翻訳)</p> <p>勁草書房 (2018/12/22)</p> <p>参考書：参加者と相談して決める</p>	成績評価方法	出席、発表、討論への参加 各回一回は発言すること。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：専門科目Ⅰ「統計」を履修していないと、演習についていくのは難しいと思われる。</p> <p>&lt;申込書類&gt; 学部所定の申込書類のみ</p> <p>&lt;選考方法&gt; 面接。</p> <p>&lt;募集人員&gt; 特段の制限はない</p> <p>&lt;来年度以降の開講予定の有無&gt; 有</p>		

時間割コード：0704916	担当教員：久保川 達也	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：演習（久保川）</p> <p>演習テーマ：数理統計演習(Mathematical Statistics : Lecture and Practice)</p> <p>授業の目標、概要：計量経済学などの分野においてデータ解析のための確率モデルの構築やモデルの評価、統計的推測などを行う際に、数理統計学の理論や考え方が基本となります。</p> <p>この演習では、「数理統計とデータ解析」（資料を用意）の内容を輪読し演習問題を解くことによって、数理統計の理解を深め統計の様々な手法の使い方を学びます。扱う内容は、確率、確率分布、変数変換、積率母関数、中心極限定理、t分布、F分布、最尤推定、尤度比検定、適合度検定、分散分析、多重比較、回帰分析、ベイズ統計、主成分分析、判別分析、ノンパラメトリック検定、ブートストラップ法などで、統計学の基本的で幅広い内容を学びます。</p> <p>授業計画：Sタームで確率から推定・検定の内容を演習問題も含めて学ぶ。</p> <p>Aタームについては、分散分析、多重比較、回帰分析、ベイズ統計、主成分分析、判別分析、ノンパラメトリック検定、ブートストラップ法などについて学ぶ。</p> <p>授業の方法：資料「数理統計とデータ解析」（久保川）の本文の解説と章末問題の解答について、各人に割り当てて行ってもらいます。黒板で説明してもらい、質問などに答えてもらいます。</p>		
テキスト	<p>教科書：「数理統計とデータ解析」（久保川）を資料として配付します。出版された後は、そちらを使うことになります。レベルは、「統計学」久保川・国友（東京大学出版会）と「現代数理統計学の基礎」久保川（共立出版）の中間程度です。</p> <p>参考書：「現代数理統計学の基礎」久保川（共立出版）</p>	成績評価方法	出席回数と板書した回数と内容で評価します。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>選考方法</p> <p>原則として次の2つの条件をみたすこととし、応募者が多数のときには、成績に基づいて選考します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 専門科目1の「統計」「マイクロ経済学」「マクロ経済学」のうち2つ以上の単位を取得済みであること。</li> <li>2) 微分積分と線形代数（行列演算）について一通りの知識をもっていること。</li> </ol> <p>申込書類は、学部指定の用紙を用いる。成績を添付すること。</p>		

時間割コード：0704917	担当教員：山本 浩司	開講学期：S1S2A1A2	単位数：4 単位 (週1 時限)
テ ー マ	<p>講義題目：演習（山本）</p> <p>演習テーマ：資本主義の過去・現在・未来：歴史的に考えるビジネスと社会、マーケットと幸福、利潤と福祉</p> <p>授業の目標、概要：ビジネスと経済市場は人びとを幸せにできるのだろうか。それとも、否が応でも性別・職業・教育による格差を生み出し、不正確な情報を売り物にし、特定のマイノリティグループを抑圧し、さらには生活の基盤や生態系そのものをも脅かしてしまうのだろうか。東アジアのトップ校とも言える本学に身をおく私たちには、何ができるのだろうか。</p> <p>本演習では、以上のような「正しい答えのない問い」に各人が向かいあうために必要な知的な土台を提供したい。そのために事例として注目するのが「最初の産業社会」として長らく注目を集めてきたイギリスの歴史である。以上をふまえ、本演習では日本語および英語の重要文献を正確に読み解き、論点を把握し、背後にある大きな研究動向を理解する。こうした文献読解の作業を通じて、西洋世界における資本主義の史的展開について理解を深め、さらにはビジネスと社会、マーケットと幸福、資本主義と福祉の関係について、歴史的視点から探求をする。最終的には国際的に通用する高いレベルで上記テーマに関係する問題群を歴史的に分析するための土台を提供したい。</p> <p>授業計画：扱う文献は、古典的文献では、労働や格差の問題を扱った E.P. Thompson の'Moral Economy of the English Crowd'(1971)や、ジェンダーと経済についての Jane Whittle の最新の研究成果(2019)などを議論したい。ただし、受講者の興味に応じて文化史・社会史・科学史・社会学・人類学などの知見を動員した学際的文献を扱う可能性もある。</p> <p>開講者の基本的問題関心については、岡崎哲二編『経済史・経営史研究法』有斐閣、2022 年所収の「時代と向き合う西洋経済史」をご確認いただきたい。</p> <p>授業の方法：ゼミ形式で行う。事前に指示された「論点」を頼りに文献を毎週 1-2 本読んでもらい、論点について順番にプレゼンと Q&amp;A をしてもらおう。ただし、難しいテキストを扱う場合は、受講者がレジメを準備して発表をする輪読形式を採用する場合もある。</p>		
テ キ ス ト	<p>教科書：なし</p> <p>参考書：</p> <p>E.H. Carr, What is History (2nd ed., 1987) [originally published in 1961] ・『歴史とは何か』清水幾太郎訳（岩波新書、1962 年）</p> <p>Marc Bloch, The Historian's Craft (1954)[French original 1949] ・マルク・ブロック『歴史のための弁明』松村剛訳（岩波書店、2004 年）</p> <p>John H. Arnold, History: A Very Short Introduction (2000) ・『歴史』新広記訳（岩波書店、2003 年）</p> <p>Georges Duby, History Continues (1994)[French original 1991] ・『歴史は続く』松村剛訳（白水社、1993 年）</p> <p>ピーター・バーク『歴史学と社会理論』慶応大学出版会、2009 年第 2 版</p>	成績評価方法	出席・プレゼン



選考方法・履修上の注意

履修上の注意：イギリスの拠点大学などで行われている参加型のディスカッションを採用しているため、大学にいる間に精一杯議論してみたい学生や、大学院進学や交換留学に興味のある学生に履修をお勧めする。



## シラバス（少人数講義）

※ 本冊子の内容は、「UTAS」のシラバスの一部抜粋である。詳細及び最新の内容は「UTAS」を参照すること。また、演習・少人数講義以外の科目のシラバスは、「UTAS」を参照すること。

時間割コード：0704815	担当教員：松島 斉（Ⅰ）	開講学期：A1A2	単位数：2 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（松島Ⅰ）</p> <p>演習テーマ：ミクロ経済学中級+アルファ</p> <p>授業の目標、概要：ゲーム理論とミクロ経済学</p> <p>授業計画：Models in Microeconomics Theory (2020, Osborne and Rubinstein)の輪読 どの箇所をやるかは相談で決める</p> <p>授業の方法：本文と問題を ZOOM あるいは対面でおこなう。 ていねいに輪読する。担当者を割り振り、スライドを作成して講義してもらう。報告者の講義内容についてみなで討論する。</p>		
テキスト	<p>教科書：Models in Microeconomics Theory (2020, Osborne and Rubinstein)</p> <p>downloadable ⇨ <a href="https://arielrubinstein.tau.ac.il/">https://arielrubinstein.tau.ac.il/</a></p> <p>参考書：随時指定。</p>	成績評価方法	おもに報告内容、出席、試験などによる
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：この講義の準備に時間を割くことが要求される。欠席厳禁。</p> <p>その他：AI AII ともに参加できる学生のみ。 ともにガイダンスを9月下旬ごろにおこない同時期に同時に募集する予定。</p>		

時間割コード：0704816	担当教員：松島 斉（Ⅱ）	開講学期：A1A2	単位数：2 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（松島Ⅱ）</p> <p>演習テーマ：ミクロ経済学中級+アルファ</p> <p>授業の目標、概要：ゲーム理論とミクロ経済学</p> <p>授業計画：Models in Microeconomics Theory (2020, Osborne and Rubinstein)の輪読 どの箇所をやるかは相談で決める</p> <p>授業の方法：本文と問題を ZOOM あるいは対面でおこなう。 ていねいに輪読する。担当者を割り振り、スライドを作成して講義してもらう。報告者の講義内容についてみなで討論する。</p>		
テキスト	<p>教科書：Models in Microeconomics Theory (2020, Osborne and Rubinstein)</p> <p>downloadable ⇨ <a href="https://arielrubinstein.tau.ac.il/">https://arielrubinstein.tau.ac.il/</a></p> <p>参考書：随時指定。</p>	成績評価方法	おもに報告内容、出席、試験などによる
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：この講義の準備に時間を割くことが要求される。欠席厳禁。</p> <p>その他：AI AII ともに参加できる学生のみ。 ともにガイダンスを9月下旬ごろにおこない同時期に同時に募集する予定。</p>		

時間割コード：0704825T	担当教員：阿部 誠（I）	開講学期：A1A2	単位数：2 単位（週1時限）
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（阿部 I）</p> <p>演習テーマ：行動意思決定論と行動経済学</p> <p>授業の目標、概要：行動意思決定理論と行動経済学の応用として、人間の非合理的意思決定のメカニズムを考察する。選好逆転現象、プロスペクト理論、フレーミング効果など、実例を通して学ぶ。</p> <p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理学と経済学と行動意思決定理論</li> <li>2 限定合理性</li> <li>3 ヒューリスティクス</li> <li>4 バイアス</li> <li>5 プロスペクト理論</li> <li>6 フレーミング効果</li> <li>7 選好の相対性</li> <li>8 時間選好</li> <li>9 社会選好</li> </ol> <p>授業の方法：主に教科書を輪読。担当の章を要約し、関心のあるケースを調査して、パワーポイントで報告、発表。</p>		
テキスト	<p>教科書：未定</p> <p>参考書：</p> <p>サクッとわかる ビジネス教養『行動経済学』阿部誠（監修）、新星出版社      新版『行動経済学』大垣昌夫、田中沙織、有斐閣      『東大教授が教えるヤバいマーケティング』阿部誠、KADOKAWA      『行動経済学』依田高典、中公新書      『予想どおりに不合理（増補版）』ダン・アリエリー（著）、熊谷淳子（訳）、早川書房      『不合理だからすべてがうまくいく』ダン・アリエリー（著）、櫻井祐子（訳）、早川書房      『行動意思決定論：バイアスの罠』バイザーマン・ムーア（著）、長瀬勝彦（訳）、白桃書房      『セイラー教授の行動経済学入門』リチャード・セイラー（著）、篠原勝（訳）、ダイヤモンド社      『行動経済学：経済は「感情」で動いている』友野典男、光文社新書      『行動意思決定論：経済行動の心理学』竹村和久、日本評論者      『ファスト&amp;スロー』（上）（下）ダニエル・カーネマン（著）、村井章子（訳）、早川書房</p>	成績評価方法	出席、質疑応答、発表。期末試験は行わない。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●申込書類：特になし</li> <li>●選考方法：特にないが、事前に参考書に目を通して自分のレベルに適切かを判断の上で履修を決めること。</li> <li>●募集人員：10 名程度</li> <li>●次年度以降の開講予定の有無：有</li> </ul>		

時間割コード：0704827	担当教員：松井 彰彦（Ⅰ）	開講学期：S1S2	単位数：2 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（松井Ⅰ）</p> <p>演習テーマ：応用マイクロ経済学</p> <p>授業の目標、概要：マイクロ経済学（市場理論・ゲーム理論）とその応用を学ぶ。知識の習得以上に論理的思考の訓練に重点を置く。また、社会的障害の経済研究も学習範囲に含める。担当教員のホームページ（<a href="http://www.amatsui.e.u-tokyo.ac.jp/index_j.html">http://www.amatsui.e.u-tokyo.ac.jp/index_j.html</a>）に詳細を載せるので併せて参照のこと。</p> <p>授業計画：テーマを決め、書籍ないし論文を読む</p> <p>授業の方法：輪読</p>		
テキスト	<p>教科書：HP 参照</p> <p>参考書：HP 参照</p>	成績評価方法	出席、発表、3年生はゼミ論、4年生は卒論必修（※ゼミ論は卒論につながるプロポーザル的なものでかまわない）
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：選考あり、詳しくは経済学部の演習の選考方法に関する情報を参照のこと。</p> <p>「少人数講義」としての開講であるが、運営はゼミ（演習）と同等である。</p> <p>少人数講義ⅠとⅡ双方に応募すること。片方だけの履修は認めない。</p> <p>その他：他学部で関心のある学生はメールにて問い合わせること</p> <p>同教員の少人数講義Ⅱも併せて履修すること</p>		

時間割コード：0704828	担当教員：松井 彰彦（Ⅱ）	開講学期：A1A2	単位数：2 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（松井Ⅱ）</p> <p>演習テーマ：応用マイクロ経済学</p> <p>授業の目標、概要：マイクロ経済学（市場理論・ゲーム理論）とその応用を学ぶ。知識の習得以上に論理的思考の訓練に重点を置く。また、社会的障害の経済研究も学習範囲に含める。担当教員のホームページ（<a href="http://www.amatsui.e.u-tokyo.ac.jp/index_j.html">http://www.amatsui.e.u-tokyo.ac.jp/index_j.html</a>）に詳細を載せるので併せて参照のこと。</p> <p>授業計画：テーマを決め、書籍ないし論文を読む</p> <p>授業の方法：輪読</p>		
テキスト	<p>教科書：HP 参照</p> <p>参考書：HP 参照</p>	成績評価方法	出席、発表、3年生はゼミ論、4年生は卒論必修（※ゼミ論は卒論につながるプロポーザル的なものでかまわない）
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：選考あり、詳しくは経済学部の演習の選考方法に関する情報を参照のこと。</p> <p>「少人数講義」としての開講であるが、運営はゼミ（演習）と同等である。</p> <p>少人数講義ⅠとⅡ双方に応募すること。片方だけの履修は認めない。</p> <p>その他：他学部で関心のある学生はメールにて問い合わせること</p> <p>同教員の少人数講義Ⅰも併せて履修すること</p>		

時間割コード：0704853W	担当教員：下津 克己（I）	開講学期：S1S2	単位数：2 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（下津 I）</p> <p>演習テーマ：計量経済学理論・実証計量経済学</p> <p>授業の目標、概要：計量経済学は、観察されたデータと経済学的仮説との関係を統計的に検証する学問である。本演習は、計量経済学の知識を身につけ、実際のデータの解析に応用できる能力を習得することを目標とする。計量経済学の理論分析に関心を持つ学生、実際の経済問題を解明する実証分析に関心を持つ学生のどちらも歓迎する。実証分析の分野としては、労働経済学、産業組織論、ファイナンスなどの分野を主に想定する。</p> <p>授業計画：3 年次生は、一年間テキストを輪読して、基礎的な計量経済学・統計学の知識を修得する。</p> <p>4 年次生は、学術雑誌に刊行された実証分析の論文を報告し、実証分析に対する理解を深めるとともに、卒業論文作成に向け、各自が個別のテーマについて学習し報告を行う。</p> <p>授業の方法：輪読・演習</p>		
テキスト	<p>教科書：参加者と相談して決めるが、西山・新谷・川口・奥井「計量経済学」有斐閣に近いレベルのものを用いる。</p> <p>4 年次には、スティーヴン・レヴィット 「ヤバい経済学」の元論文を容易に理解できるレベルに到達することを目標とする。</p> <p>参考書：西山・新谷・川口・奥井「計量経済学」有斐閣</p>	成績評価方法	報告内容と平常点に基づく。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>申込書類：所定用紙の他に参加希望の理由についてレポート(枚数自由)を提出する。</p> <p>選考方法：申込書類による。</p> <p>新規参加人員：4-6 名程度。</p> <p>その他：3 年終了時までには「計量経済学」もしくは「数理統計」の単位を取得することが望ましい。</p>		

時間割コード：0704854W	担当教員：下津 克己（Ⅱ）	開講学期：A1A2	単位数：2 単位（週1時限）
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（下津Ⅱ）</p> <p>演習テーマ：計量経済学理論・実証計量経済学</p> <p>授業の目標、概要：計量経済学は、観察されたデータと経済学的仮説との関係を統計的に検証する学問である。本演習は、計量経済学の知識を身につけ、実際のデータの解析に応用できる能力を習得することを目標とする。計量経済学の理論分析に関心を持つ学生、実際の経済問題を解明する実証分析に関心を持つ学生のどちらも歓迎する。実証分析の分野としては、労働経済学、産業組織論、ファイナンスなどの分野を主に想定する。</p> <p>授業計画：3年次生は、一年間テキストを輪読して、基礎的な計量経済学・統計学の知識を修得する。</p> <p>4年次生は、学術雑誌に刊行された実証分析の論文を報告し、実証分析に対する理解を深めるとともに、卒業論文作成に向け、各自が個別のテーマについて学習し報告を行う。</p> <p>授業の方法：輪読・演習</p>		
テキスト	<p>教科書：参加者と相談して決めるが、西山・新谷・川口・奥井「計量経済学」有斐閣に近いレベルのものを用いる。</p> <p>4年次には、スティーヴン・レヴィット「ヤバい経済学」の元論文を容易に理解できるレベルに到達することを目標とする。</p> <p>参考書：西山・新谷・川口・奥井「計量経済学」有斐閣</p>	成績評価方法	報告内容と平常点に基づく。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>申込書類：所定用紙の他に参加希望の理由についてレポート(枚数自由)を提出する。</p> <p>選考方法：申込書類による。</p> <p>新規参加人員：4-6名程度。</p> <p>その他：3年終了時までには「計量経済学」もしくは「数理統計」の単位を取得することが望ましい。</p>		



時間割コード：0704862	担当教員：尾山 大輔（Ⅰ）	開講学期：S1S2	単位数：2 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（尾山Ⅰ）</p> <p>演習テーマ：経済理論演習Ⅰ</p> <p>授業の目標、概要：ものごとを論理的に考察する能力を養う。今年度は、経済学/ゲーム理論における数値解析手法について学ぶ。</p> <p>授業計画：各自、実際にアルゴリズムを実装してみる。主に Python を用いるが、必要に応じて Julia も併用する。オープンソースの数値解析ライブラリ（QuantEcon.py/QuantEcon.jl/GameTheory.jl など）に寄与するようなものを生産することを目指す。</p> <p>授業の方法：実習</p>		
テキスト	<p>教科書：とくになし</p> <p>参考書： Thomas J. Sargent and John Stachurski, Lectures in Quantitative Economics, lectures.quantecon.org</p>	成績評価方法	出席，発表，討論への貢献
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：学部所定の申込書類および駒場（教養学部）の成績表に加えて、自己紹介、本演習参加希望の理由などをまとめたものを提出してください（分量自由）。提出書類と面接にもとづいて選考します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「少人数講義（尾山Ⅰ）」（S1S2）と「少人数講義（尾山Ⅱ）」（A1A2）双方に応募すること。片方のみの履修は認めない。</li> <li>・大学院生の参加を歓迎します。</li> <li>・www.oyama.e.u-tokyo.ac.jp/zemi 参照のこと。</li> </ul>		

時間割コード：0704863	担当教員：尾山 大輔（Ⅱ）	開講学期：A1A2	単位数：2 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（尾山Ⅱ）</p> <p>演習テーマ：経済理論演習Ⅰ</p> <p>授業の目標、概要：ものごとを論理的に考察する能力を養う。今年度は、経済学/ゲーム理論における数値解析手法について学ぶ。</p> <p>授業計画：各自、実際にアルゴリズムを実装してみる。主に Python を用いるが、必要に応じて Julia も併用する。オープンソースの数値解析ライブラリ（QuantEcon.py/QuantEcon.jl/GameTheory.jl など）に寄与するようなものを生産することを目指す。</p> <p>授業の方法：実習</p>		
テキスト	<p>教科書：とくになし</p> <p>参考書： Thomas J. Sargent and John Stachurski, Lectures in Quantitative Economics, lectures.quantecon.org</p>	成績評価方法	出席，発表，討論への貢献
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：学部所定の申込書類および駒場（教養学部）の成績表に加えて、自己紹介、本演習参加希望の理由などをまとめたものを提出してください（分量自由）。提出書類と面接にもとづいて選考します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「少人数講義（尾山Ⅰ）」（S1S2）と「少人数講義（尾山Ⅱ）」（A1A2）双方に応募すること。片方のみの履修は認めない。</li> <li>・大学院生の参加を歓迎します。</li> <li>・www.oyama.e.u-tokyo.ac.jp/zemi 参照のこと。</li> </ul>		

時間割コード：0704864	担当教員：北尾 早霧（Ⅰ）	開講学期：S1S2	単位数：2 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（北尾Ⅰ）</p> <p>演習テーマ：マクロ経済・経済政策</p> <p>授業の目標、概要：理論を踏まえたマクロ経済・経済政策の分析と理解を目標とする。</p> <p>授業計画：参加者と相談の上決定するが、マクロ経済・経済政策の幅広い分野から、参加者の関心が高いトピックについて理解を深めたい。卒論は要件としない。</p> <p>授業の方法：参加者による研究関連の記事 (Voxeu, Microeconomic insights、Journal of Economic Perspectives 等)・教科書などの輪読・発表および討論。授業参加を通じて発表や討論の技術を磨くと同時に、答えのない経済問題について参加者の色々な観点から考察・分析を行いたい。</p>		
テキスト	<p>教科書：参加者と相談の上決定する。</p> <p>参考書：参加者と相談の上決定する。</p>	成績評価方法	出席・ゼミでの発表・討論・その他平常点。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：学部所定の申込書類および成績表と以下のレポートを提出。提出書類と面接によって選考する。</p> <p>レポート：経済現象・経済政策について関心のある問題についてのレポート。問題意識と自分の意見・考察を中心に、A4で1～3枚程度にまとめる。</p> <p>募集人員約10名。</p>		

時間割コード：0704865	担当教員：北尾 早霧（Ⅱ）	開講学期：A1A2	単位数：2 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（北尾Ⅱ）</p> <p>演習テーマ：マクロ経済・経済政策</p> <p>授業の目標、概要：理論を踏まえたマクロ経済・経済政策の分析と理解を目標とする。</p> <p>授業計画：参加者と相談の上決定するが、マクロ経済・経済政策の幅広い分野から、参加者の関心が高いトピックについて理解を深めたい。卒論は要件としない。</p> <p>授業の方法：参加者による研究関連の記事 (Voxeu, Microeconomic insights、Journal of Economic Perspectives 等)・教科書などの輪読・発表および討論。授業参加を通じて発表や討論の技術を磨くと同時に、答えのない経済問題について参加者の色々な観点から考察・分析を行いたい。</p>		
テキスト	<p>教科書：参加者と相談の上決定する。</p> <p>参考書：参加者と相談の上決定する。</p>	成績評価方法	出席・ゼミでの発表・討論・その他平常点。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：学部所定の申込書類および成績表と以下のレポートを提出。提出書類と面接によって選考する。</p> <p>レポート：経済現象・経済政策について関心のある問題についてのレポート。問題意識と自分の意見・考察を中心に、A4で1～3枚程度にまとめる。</p> <p>募集人員約10名。</p>		

時間割コード：0704869	担当教員：市村 英彦（I）	開講学期：S 2	単位数：2 単位（週2 時限）
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（市村 I）</p> <p>演習テーマ：上級理論計量経済学演習</p> <p>授業の目標、概要：計量経済学の基礎の既修者を対象に、学部上級から大学院レベルの理論計量経済学とその統計・数理的基礎を身につけるための輪読・問題演習を行う。</p> <p>授業計画：前期では、パラメトリック推測理論を Advanced Econometrics、後期は、ノンパラメトリック推測理論（Density Estimation, Local Polynomial Modelling）、セミパラメトリック推測理論を、適宜論文や資料などで輪読する。また、並行して、2 時限目に問題演習を通して、輪読した内容のより深い理解を目指す。</p> <p>授業の方法：輪読と問題演習</p>		
テキスト	<p>教科書：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Advanced Econometrics, Takeshi Amemiya, Harvard University Press, 1985</li> <li>・ Local Polynomial Modelling and Its Applications: Monographs on Statistics and Applied Probability 66 (Chapman &amp; Hall/CRC Monographs on Statistics and Applied Probability), Jianqing Fan, Irene Gijbels</li> <li>・ Density Estimation for Statistics and Data Analysis, B.W.Silverman</li> </ul> <p>参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Strang, Gilbert, "Linear Algebra and Its Applications," Cengage Learning</li> <li>・ Lang, Serge, "A First Course in Calculus," Springer, and</li> <li>・ Lang, Serge, "Calculus of Several Variables," Springer.</li> <li>・ 稲垣宣生「数理統計学（改訂版）」裳華房</li> <li>・ 二階堂副包「現代経済学の数学的方法」岩波書店</li> <li>・ Rudin, Walter, "Principles of Mathematical Analysis," 3rd edition, McGraw-Hill.</li> <li>・ Newey, McFadden, "Large Sample Estimation and Hypothesis Testing," Handbook of Econometrics Chap 36</li> </ul>	成績評価方法	輪読の際の準備状況、演習の発表内容
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：本ゼミは、担当教員の海外大学との兼任の関係で、日本滞在期間の S2 セメのみ単位が取得できる、基本的に自主ゼミとして機能する。今年度の募集は、3 月からすでに Advanced Econometrics の輪読が始まっていることも踏まえ、(i)月曜日の 1, 2 限に通年で輪読・演習に参加できる人(ii)学部の計量経済学の内容を前提に、Advanced Econometrics の線形推測理論の箇所を自習などを通してカバーできる学習水準に達している人のみを特別に追加募集という形で選考する。</p> <p>本ゼミでは、実証的話題を直接扱うことはないが、それらの兼ゼミや授業などを通しての関連した学習を勧める。</p>		

時間割コード：0704871	担当教員：Griffen Andrew Shields ( I )	開講学期：A1A2	単位数：2 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義 (グリフェン I)</p> <p>演習テーマ：Business Data Science using R</p> <p>授業の目標、概要：This will be a student led programming class where we will learn the R programming language for data science using a book called "Business Data Science" by Matt Taddy. The author introduces data analysis, regression, experiments, regularization, machine learning, and artificial intelligence in the context of making business decisions. The course will be hands-on and students are expected to learn to program and make class presentations about the material in the book. I hope we can cover all the material in the book during the semester. No prior knowledge of R is expected and I believe all students can acquire the relevant skills during the course. Students should install R and the RStudio IDE before the class begins. This course should help students acquire data analytics and programming skills that are increasingly useful in today's digital economy.</p> <p>Please contact me (griffen@e.u-tokyo.ac.jp) before the course begins for access to the course website on Google classroom or if you have any questions about the course. My website (www.griffen.e.u-tokyo.ac.jp) will also have any further announcements or updates.</p> <p>授業計画：Mondays 6th period</p> <p>授業の方法：Students lead class, professor provides comments</p>		
テキスト	<p>教科書："Business Data Science: Combining Machine Learning and Economics to Optimize, Automate, and Accelerate Business Decisions" by Matt Taddy</p> <p>参考書：.</p>	成績評価方法	Participation and attendance
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：.</p> <p>その他：</p>		

時間割コード：0704875	担当教員：Griffen Andrew Shields (II)	開講学期：A1A2	単位数：2 単位 (週1 時限)
テーマ	講義題目：少人数講義 (グリフェンII) 演習テーマ：Nobel Prizes in Economics 授業の目標、概要：We will read and discuss nontechnical summaries of Nobel Prizes in Economic Sciences. The idea is for us to learn about Nobel Prize winning research ideas across a wide range of fields. 授業計画：Mondays 6th period 授業の方法：Discussion		
テキスト	教科書：. 参考書：.	成績評価方法	Attendance and participation
選考方法・履修上の注意	履修上の注意：. その他：		

時間割コード：0704876	担当教員：小島 武仁（I）	開講学期：S1S2	単位数：2 単位 (週1時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（小島武仁 I）</p> <p>演習テーマ：Market Design 1（マーケットデザイン 1）</p> <p>授業の目標、概要：経済理論とそのマーケットデザイン（制度設計）への応用を学びます。冬学期の少人数講義とともに履修することを前提とします。昨年度はマッチング問題に特に注目して勉強をしました。今年も広い意味でマーケットデザインの勉強を予定していますが、具体的な分野や文献については学生と教員で相談して決定していきます。</p> <p>授業計画：詳細な説明は授業中に行う</p> <p>授業の方法：まず基本的な文献を学生発表により学習する。その後、発展的な内容を学びつつ、興味に応じてプロジェクトを行うことを目指す。</p>		
テキスト	<p>教科書：</p> <p>A book manuscript (in Japanese) at <a href="https://www.dropbox.com/s/nv6damxtb53u850/matching-theory-texbook-manuscript.pdf?dl=0">https://www.dropbox.com/s/nv6damxtb53u850/matching-theory-texbook-manuscript.pdf?dl=0</a></p> <p>Other materials are to be announced.</p> <p>参考書：</p> <p>For reviewing basic material in matching theory, take a look at lecture slides at <a href="https://sites.google.com/site/fuhitokojimaeconomics/econ-182-spring-2019">https://sites.google.com/site/fuhitokojimaeconomics/econ-182-spring-2019</a>.</p> <p>Additional information can be obtained from Haeringer, G. (2018) Market Design: Auctions and Matching, MIT Press</p>	成績評価方法	授業中の発表や議論への参加などによる。
選考方法・履修上の注意	履修上の注意：ゲーム理論の基本的な知識があれば望ましいが、必ずしも前提とはしない。とりわけ難しい数学の知識も必要ないが、数学的な議論を丹念に追いかける「辛抱強さ」のようなものが必要である。また、理論を社会実装するという視点を重視するため、既存の理論をしっかりと理解することだけでなく応用について創造的に考えることを面白いと感じられることも重要だと思われる。		

時間割コード：0704877	担当教員：小島 武仁（Ⅱ）	開講学期：A1A2	単位数：2 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（小島武仁Ⅱ）</p> <p>演習テーマ：Market Design 2（マーケットデザイン1）</p> <p>授業の目標、概要：経済理論とそのマーケットデザイン（制度設計）への応用を学びます。夏学期の少人数講義とともに履修することを前提とします。昨年度はマッチング問題に特に注目して勉強をしました。今年も広い意味でマーケットデザインの勉強を予定していますが、具体的な分野や文献については学生と教員で相談して決定していきます。</p> <p>授業計画：詳細な説明は授業中に行う</p> <p>授業の方法：まず基本的な文献を学生発表により学習する。その後、発展的な内容を学びつつ、興味に応じてプロジェクトを行うことを目指す。</p>		
テキスト	<p>教科書：</p> <p>A book manuscript (in Japanese) at <a href="https://www.dropbox.com/s/nv6damxtb53u850/matching-theory-texbook-manuscript.pdf?dl=0">https://www.dropbox.com/s/nv6damxtb53u850/matching-theory-texbook-manuscript.pdf?dl=0</a></p> <p>Other materials are to be announced.</p> <p>参考書：</p> <p>For reviewing basic material in matching theory, take a look at lecture slides at <a href="https://sites.google.com/site/fuhitokojimaeconomics/econ-182-spring-2019">https://sites.google.com/site/fuhitokojimaeconomics/econ-182-spring-2019</a>.</p> <p>Additional information can be obtained from Haeringer, G. (2018) Market Design: Auctions and Matching MIT Press</p>	成績評価方法	授業中の発表や議論への参加などによる。
選考方法・履修上の注意	履修上の注意：ゲーム理論の基本的な知識があれば望ましいが、必ずしも前提とはしない。とりわけ難しい数学の知識も必要ないが、数学的な議論を丹念に追いかける「辛抱強さ」のようなものが必要である。また、理論を社会実装するという視点を重視するため、既存の理論をしっかり理解することだけでなく応用について創造的に考えることを面白いと感じられることも重要だと思われる。		

時間割コード：0704880	担当教員：高橋 悟（I）	開講学期：S1S2	単位数：2 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（高橋悟 I）</p> <p>演習テーマ：不完備情報ゲームについて</p> <p>授業の目標、概要：太郎さんと花子さんは、明日デートに出かけます。二人とも、もし明日雨が降るなら、どちらか一方が傘を持って行ったほうが良いと考えています。太郎くんは次のことを信じています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 明日は雨が降る。</li> <li>2. 花子さんは明日雨が降ると信じている。</li> <li>3. 花子さんは「太郎くんは明日晴れると信じている」と信じている。</li> </ol> <p>さて、太郎くんは、明日傘を持っていくでしょうか？</p> <p>不完備情報ゲームの研究は、1960 年代の John Harsanyi に始まり、ゆっくりとですが着実に進歩してきました。今や、我々ゲーム理論家は CPA (common prior assumption) や IPV (independent private value) に縛られることなく、自由な発想で、ゲームの情報構造を細部にわたって指定できます。しかし、それは頑健性が担保されているとは限らない、とても危うい行為であることも分かっています。</p> <p>この授業では、以上のことを踏まえつつ、不完備情報ゲームの発展的な話題も含めて講義をします。</p> <p>授業計画：以下の話題を、各 2 週間程度ずつ扱う予定ですが、実際の進行速度は受講者の理解（の分布）に応じて調整します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な解概念</li> <li>2. 高次信念と普遍タイプ空間</li> <li>3. 共有知識（周知の事実）</li> <li>4. 戦略的位相</li> <li>5. 不完備情報頑健性</li> <li>6. 情報頑健な制度設計</li> </ol> <p>授業の方法：講義と学生による発表</p>		
テキスト	<p>教科書：特になし</p> <p>参考書：以下が基本的な文献ですが、必要に応じて適宜追加していきます。</p> <p>Brandenburger, A. and E. Dekel (1987). ``Rationalizability and Correlated Equilibria," <i>Econometrica</i> 55, 1391-1402.</p> <p>Brandenburger, A. and E. Dekel (1993). ``Hierarchies of Beliefs and Common Knowledge," <i>Journal of Economic Theory</i> 59, 189-198.</p> <p>Rubinstein, A. (1989). ``The Electronic Mail Game: Strategic Behavior under `Almost Common Knowledge" <i>American Economic Review</i> 79, 385-391.</p> <p>Monderer, D. and D. Samet (1989). ``Approximating Common Knowledge with Common Beliefs," <i>Games and Economic Behavior</i> 1, 170-190. (9/25)</p> <p>Dekel, E., D. Fudenberg, and S. Morris (2006). ``Topologies on types," <i>Theoretical Economics</i> 1, 275-309.</p> <p>Dekel, E., D. Fudenberg, and S. Morris (2007). ``Interim Correlated Rationalizability," <i>Theoretical Economics</i> 2, 15-40.</p>	成績評価方法	宿題と発表



	<p>Weinstein, J. and M. Yildiz (2007). ``A Structure Theorem for Rationalizability with Application to Robust Predictions of Refinements," <i>Econometrica</i> 75, 365-400.</p> <p>Kajii, A. and S. Morris (1997). ``The Robustness of Equilibria to Incomplete Information," <i>Econometrica</i> 65, 1283-1309.</p> <p>Morris, S., D. Oyama, and S. Takahashi (2022). ``Implementation via Information Design in Binary-Action Supermodular Games."</p>		
<p>選考方法・履修上の注意</p>	<p>履修上の注意：ゲーム理論の基本的な知識（専門科目1「ゲーム理論」相当）を前提とします。令和5年度の少人数講義は春学期、秋学期ともに開講しますが、内容は独立しています。どちらか一方だけを履修しても構いません。</p>		

時間割コード：0704881	担当教員：高橋 悟（II）	開講学期：A1A2	単位数：2 単位 (週1 時限)
テ マ	<p>講義題目：少人数講義（高橋悟II）</p> <p>演習テーマ：繰り返しゲームについて</p> <p>授業の目標、概要：繰り返しゲームは、長期的関係にあるプレーヤーたちの戦略的意思決定を扱う動学ゲームの一種で、形式的には、同じ静学ゲームを何度も繰り返すゲームのことを指します。このようにシンプルな定義にも関わらず、繰り返しゲームには多種多様な戦略が存在し、各期のゲームを個別に分析しては説明できないような行動も均衡として現れます。その一方で、多くの場合にフォーク定理と呼ばれる結果が成り立ち、均衡利得全体の集合が feasibility と minmax 値のみによって特徴づけられます。繰り返しゲームは、カルテルや談合について考えるための基本的な理論的枠組みであり、ヒトやチスイコウモリの利他的な行動に究極的な説明を与える理論のひとつでもあります。</p> <p>この授業では、繰り返しゲームの標準的な内容を Mailath and Samuelson の教科書に沿って講義をします。人生は一回限りですが、繰り返すことによるのみ見える世界もあるかと思います。</p> <p>授業計画：教科書に従いますが、実際の進行速度は受講者の理解（の分布）に応じて調整します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 完全観測</li> <li>2. (不完全) 公的観測</li> <li>3. 私的観測</li> <li>4. 評判</li> </ol> <p>授業の方法：講義と学生の発表</p>		
テ キ ス ト	<p>教科書：George J. Mailath and Larry Samuelson (2006), Repeated Games and Reputations: Long-Run Relationships, Oxford University Press. (George のホームページに誤植の訂正があります。)</p> <p>参考書：特になし</p>	成 績 評 価 方 法	宿題と発表
選 考 方 法 ・ 履 修 上 の 注 意	<p>履修上の注意：ゲーム理論の基本的な知識（専門科目1「ゲーム理論」相当）を前提とします。令和5年度の少人数講義は春学期、秋学期ともに開講しますが、内容は独立しています。どちらか一方だけを履修しても構いません。</p>		

時間割コード：0704882	担当教員：首藤 昭信（I）	開講学期：S1S2	単位数：2 単位（週1時限）
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（首藤 I）</p> <p>演習テーマ：財務諸表分析と企業評価</p> <p>授業の目標、概要：基本的な財務諸表分析の知識を習得した上で、会計情報が利用される具体的なケースを想定した高度な企業評価の方法を探求する。具体的には、財務諸表分析を単なる比率の暗記と捉えるのではなく、経済理論やファイナンス理論にもとづいて、株式投資といった投資戦略や銀行融資契約といった契約の効率性を高める会計情報の活用について習得する。そのために、現代の会計学研究で蓄積されている知見と手法の習得を目指す。最終的には実証的なアプローチにもとづくゼミ論（卒業時に提出）の執筆を目指す。</p> <p>※本ゼミは、少人数講義で設定していますが、2年間の継続したゼミナールになります。卒業論文の執筆は必須となる点に注意してください。</p> <p>授業計画：3年生は、財務諸表分析に関する基本的なテキストまたは学術論文の輪読を行う。受講者が順番で担当部分のレジュメを作成し、プレゼンテーションを行う。また、その知識にもとづいて、学外の株式投資コンテスト（日経 STOCK リーグ）への参加を行う。4年生は、卒業論文の執筆にむけて各自の研究テーマにもとづく報告を行う。</p> <p>授業の方法：受講者の報告をベースにして、受講者間の討論がクラスの課題となる。必要に応じて教員が補足説明を行う。</p>		
テキスト	<p>教科書：受講者として相談して決める。なお本演習の内容は、会計の資格試験の内容とは大きく異なるため、受験参考書を用いることはない。</p> <p>参考書：受講者として相談して決める。</p>	成績評価方法	<p>担当者のプレゼンテーションの内容、またはクラスの議論への貢献度合い等を総合的に勘案して評価する。4年生は、ゼミ論の完成度が中心的な評価対象となる。</p>
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>[申込書類]</p> <p>(1) 自己紹介</p> <p>(2) 本演習の志望理由</p> <p>(3) 将来の志望進路</p> <p>以上の3点をまとめたレポートを提出する（枚数および書式は自由）。</p> <p>[選考方法]</p> <p>書類審査および面接による。</p> <p>※申込申請した者は、面接の日時を伝えるため首藤まですぐにメール（shuto@e.u-tokyo.ac.jp）を出すこと。</p> <p>[新規募集人員] 10名程度</p> <p>[翌年度以降の開講予定の有無]</p> <p>・2023年度のA1A2タームと2024年のS1S2タームは、担当教員はサバティカルになります。現在はゼミ（少人数講義）は開講予定ですが、場合によっては、講義形態が変わったり（オンライン）、可能性は低いですが開講しない可能性があることをご了承ください。</p> <p>その他：会計学に関心がある多くの学生は、資格試験の取得に関心があると思います。しかし会計学は欧米のビジネス・スクールで主要な戦略科目として位置づけられており、金融や会計実務への応用可能性が非常に高い学問です。会計学の知識取得を資格取得の手段とするのではなく、資格取得後の自分をイメージして、本演習で会計学の可能性を探求してください。また大学院への進学希望者も歓迎します。</p>		

時間割コード：0704883	担当教員：首藤 昭信（Ⅱ）	開講学期：A1A2	単位数：2 単位（週1時限）
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（首藤Ⅱ）</p> <p>演習テーマ：財務諸表分析と企業評価</p> <p>授業の目標、概要：基本的な財務諸表分析の知識を習得した上で、会計情報が利用される具体的なケースを想定した高度な企業評価の方法を探求する。具体的には、財務諸表分析を単なる比率の暗記と捉えるのではなく、経済理論やファイナンス理論にもとづいて、株式投資といった投資戦略や銀行融資契約といった契約の効率性を高める会計情報の活用について習得する。そのために、現代の会計学研究で蓄積されている知見と手法の習得を目指す。最終的には実証的なアプローチにもとづくゼミ論（卒業時に提出）の執筆を目指す。</p> <p>※本ゼミは、少人数講義で設定していますが、2年間の継続したゼミナールになります。卒業論文の執筆は必須となる点に注意してください。</p> <p>授業計画：3年生は、財務諸表分析に関する基本的なテキストまたは学術論文の輪読を行う。受講者が順番で担当部分のレジュメを作成し、プレゼンテーションを行う。また、その知識にもとづいて、学外の株式投資コンテスト（日経 STOCK リーグ）への参加を行う。4年生は、卒業論文の執筆にむけて各自の研究テーマにもとづく報告を行う。</p> <p>授業の方法：受講者の報告をベースにして、受講者間の討論がクラスの課題となる。必要に応じて教員が補足説明を行う。</p>		
テキスト	<p>教科書：受講者として相談して決める。なお本演習の内容は、会計の資格試験の内容とは大きく異なるため、受験参考書を用いることはない。</p> <p>参考書：受講者として相談して決める。</p>	成績評価方法	<p>担当者のプレゼンテーションの内容、またはクラスの議論への貢献度合い等を総合的に勘案して評価する。4年生は、ゼミ論の完成度が中心的な評価対象となる。</p>
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>[申込書類]</p> <p>(1) 自己紹介</p> <p>(2) 本演習の志望理由</p> <p>(3) 将来の志望進路</p> <p>以上の3点をまとめたレポートを提出する（枚数および書式は自由）。</p> <p>[選考方法]</p> <p>書類審査および面接による。</p> <p>※申込申請した者は、面接の日時を伝えるため首藤まですぐにメール（shuto@e.u-tokyo.ac.jp）を出すこと。</p> <p>[新規募集人員] 10名程度</p> <p>[翌年度以降の開講予定の有無]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度のA1A2タームと2024年のS1S2タームは、担当教員はサバティカルになります。現在はゼミ（少人数講義）は開講予定ですが、場合によっては、講義形態が変わったり（オンライン）、可能性は低いですが開講しない可能性があることをご了承ください。</li> </ul> <p>その他：会計学に関心がある多くの学生は、資格試験の取得に関心があると思います。しかし会計学は欧米のビジネス・スクールで主要な戦略科目として位置づけられており、金融や会計実務への応用可能性が非常に高い学問です。会計学の知識取得を資格取得の手段とするのではなく、資格取得後の自分をイメージして、本演習で会計学の可能性を探求してください。また大学院への進学希望者も歓迎します。</p>		

時間割コード：0704884	担当教員：入江 薫（Ⅰ）	開講学期：S1S2	単位数：2 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（入江Ⅰ）</p> <p>演習テーマ：動的線形モデルによる時系列データ分析</p> <p>授業の目標、概要：時間の経過とともに複数回観測されるデータを時系列データという。時系列データの分析のための標準的なモデルとして、線形モデル（回帰モデル）の対応物である動的線形モデル(Dynamic linear models, DLMs)が知られている。この少人数講義では定評のある書籍を輪読し、動的線形モデルの基本的な性質や、フィルタリング・スムージングと呼ばれる計算手法を学習する。また実際の計算のためのプログラミング演習も行う。</p> <p>授業計画：指定教科書の二章～四章、および十一章の一部の内容を学習する。</p> <p>授業の方法：輪読形式。講義ごとに担当者を決めて、割り当てられた章・節・ページの内容を解説してもらう。指定の演習問題を解いたり、作成したプログラムの実演をしたりしてもらうこともある。</p>		
テキスト	<p>教科書：West, M., and Harrison, J. (1997) Bayesian forecasting and dynamic models, Springer.</p> <p>(学内ネットワークから電子ブックが利用可能。)</p> <p>参考書：適宜紹介する。</p>	成績評価方法	出席、報告、質問やコメントなどの発言を評価する。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：</p> <p>申込書類：成績表とエッセイ（大学入学以降に関心をもって学習・研究してきたことと、後期課程でやりたいことについて書いてください。統計学に関するものでなくてもかまいません。）</p> <p>選考方法：書類による。</p> <p>募集人数：各学年 5,6 人程度</p> <p>履修の前提となる知識：「統計 I,II」の内容</p>		

時間割コード：0704885	担当教員：入江 薫（Ⅱ）	開講学期：A1A2	単位数：2 単位 (週1 時限)
テーマ	<p>講義題目：少人数講義（入江Ⅱ）</p> <p>演習テーマ：動的線形モデルによる時系列データ分析</p> <p>授業の目標、概要：前期の学習成果を踏まえ、受講者の関心に沿って輪読による学習を続ける。</p> <p>授業計画：前期の受講者に輪読する本・論文を決めてもらう。確率論・ベイズ統計学・時系列分析に関する本・論文をいくつか紹介する予定である。意見が対立する場合には、指定書籍を用いる。</p> <p>授業の方法：前期と同様に、輪読を行う。</p>		
テキスト	<p>教科書：West, M., and Harrison, J. (1997) Bayesian forecasting and dynamic models, Springer.</p> <p>参考書：別途指示する。</p>	成績評価方法	出席、報告、質問やコメントの発言を評価する。
選考方法・履修上の注意	<p>履修上の注意：前期からの継続履修を前提とする。</p>		



### Ⅲ その他、諸手続等





### Ⅲ その他、諸手続等

#### 1. 経済学部教務チーム学部担当

1) 届出を必要とする諸手続は、所定用紙をもって、教務チーム学部担当に提出を行う必要があります。窓口では本人確認を行いますので、学生証を必ず持参するようにしてください。

2) 窓口業務時間は次のとおりです。

—10:00～12:00、13:00～15:00（土日・祝祭日を除く）

<注：2023年3月現在、新型コロナウイルス感染拡大防止策を継続しつつ対応しています>

1) 届出を必要とする諸手続は、教務チーム学部担当宛て、電子メール、郵送又はITC-LMS等による提出も受け付けています。

2) 窓口業務時間は、活動制限指針レベル等により変更となる場合があります。最新の情報については、下記2.の経済学部WEBサイト「学生向け情報」を確認してください。

#### 2. 告知等

1) 経済学部における授業・行事日程及びその他、学生への周知事項は、基本的にはすべてUTASに掲出することにより行いますので、常に確認するようにしてください。

2) なお、一部の情報については、次の経済学部WEBサイト「学生向け情報」にも掲載していますので、参照してください。

<http://www.student.e.u-tokyo.ac.jp/>

3) 緊急時の連絡手段となるため、UTASの「住所」「電話番号」「メールアドレス」については、常に最新のものを登録・更新するようにしてください。併せて、各自のメールアドレスについて、UTAS等からの電子メールを常に受信可能な設定にしておいてください。

また、「保護者連絡先」に変更がある場合には、教務チーム学部担当に申し出てください。

### 3. 転学科について

1) 3年生のうち次年度の4月からの転学科の願出を行う学生は、2月上旬に、転学科願を教務チーム学部担当に提出してください。

### 4. 休学について

1) 休学を許可することができる事由は、学生の休学の基準(経済学部便覧参照)に定められています。

2) 休学の願出を行う学生は、休学開始の1ヶ月前までに、休学願を教務チーム学部担当に提出してください。

3) その中でも、経済的理由による休学(学生の休学の基準第1条第3項)の場合、許可することができる期間は、半年もしくは1年となります。

—半年(4月1日～9月30日もしくは10月1日～3月31日)

—1年(4月1日～3月31日もしくは10月1日～9月30日)

### 5. 卒業決定者の判定について

1) 経済学部における卒業時期は、3月もしくは9月となります。

2) 9月の卒業決定者については、東京大学経済学部規則第31条により、対象学生のうち9月卒業見込届の提出のあった学生についてのみ、判定を行うこととなります。

3) 3月の卒業決定者については、東京大学経済学部規則第31条により、対象学生の全てについて、判定を行うこととなります。

4) 卒業決定者の判定に際しては、休学中の学生については、対象外となります。

—3月卒業を予定している在学延長者のうち、経済的理由による休学を希望する場合には、上記4. 2)の期限までに、4月1日～9月30日の休学を願う必要があるため、十分注意すること。(ただし、履修登録を行うことができるのはA1ターム・A2タームのみとなるので、十分注意すること。)

<参考>卒業見込届とは、4年生が自ら卒業必要単位の確認を行い、併せて学位記記載事項の最終確認を行うため、届出を必要とする事項になります。

・9月卒業の場合、3月卒業延期となった学生で9月卒業を希望する学生のみ、6月上旬に、9月卒業見込届を提出する必要があります。

・3月卒業の場合、全ての4年生は、12月上旬に、卒業見込届もしくは卒業延期届を提出する必要があります。(卒業延期届を提出した場合であっても、上記5. 3)による3月の卒業決定者の判定を行うことになり、卒業要件を満たしている場合には卒業となります。)